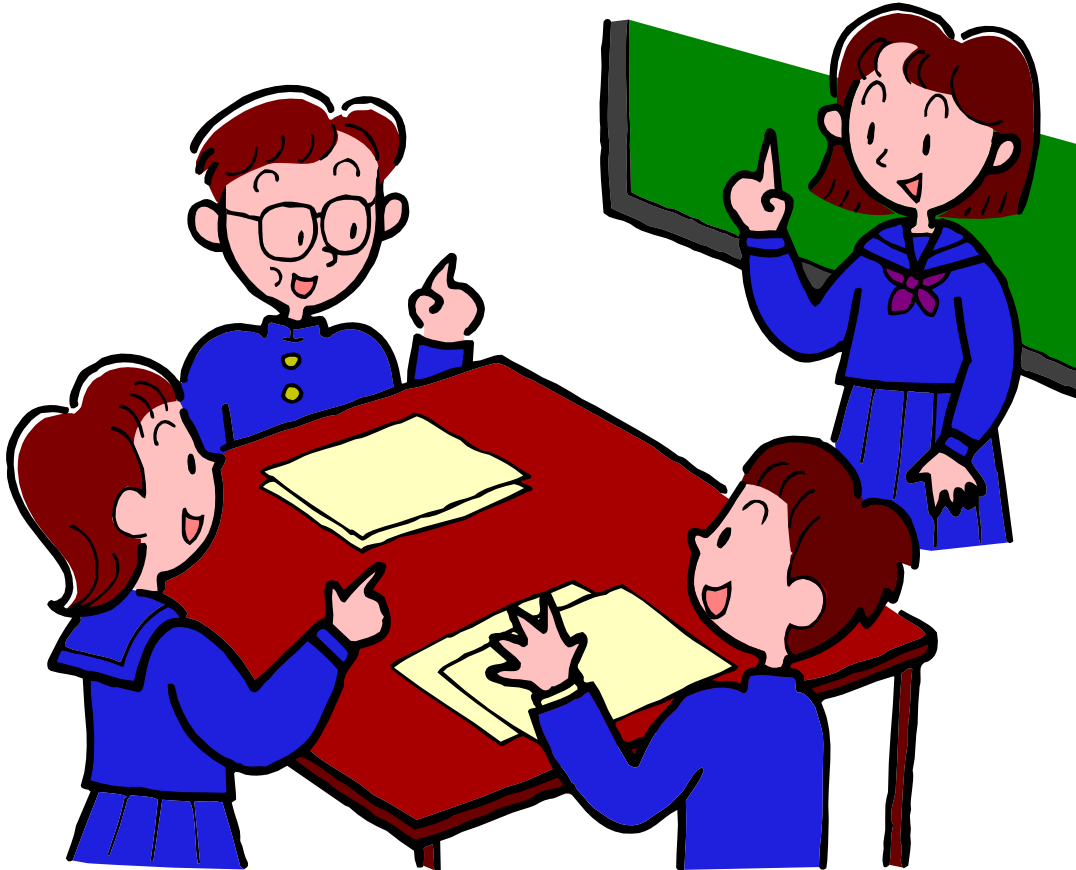


平成 28 年度版

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業づくりガイドブック

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善

中学校・高等学校 国語科編



平成 29 年 3 月
岩手県立総合教育センター
教科領域教育担当

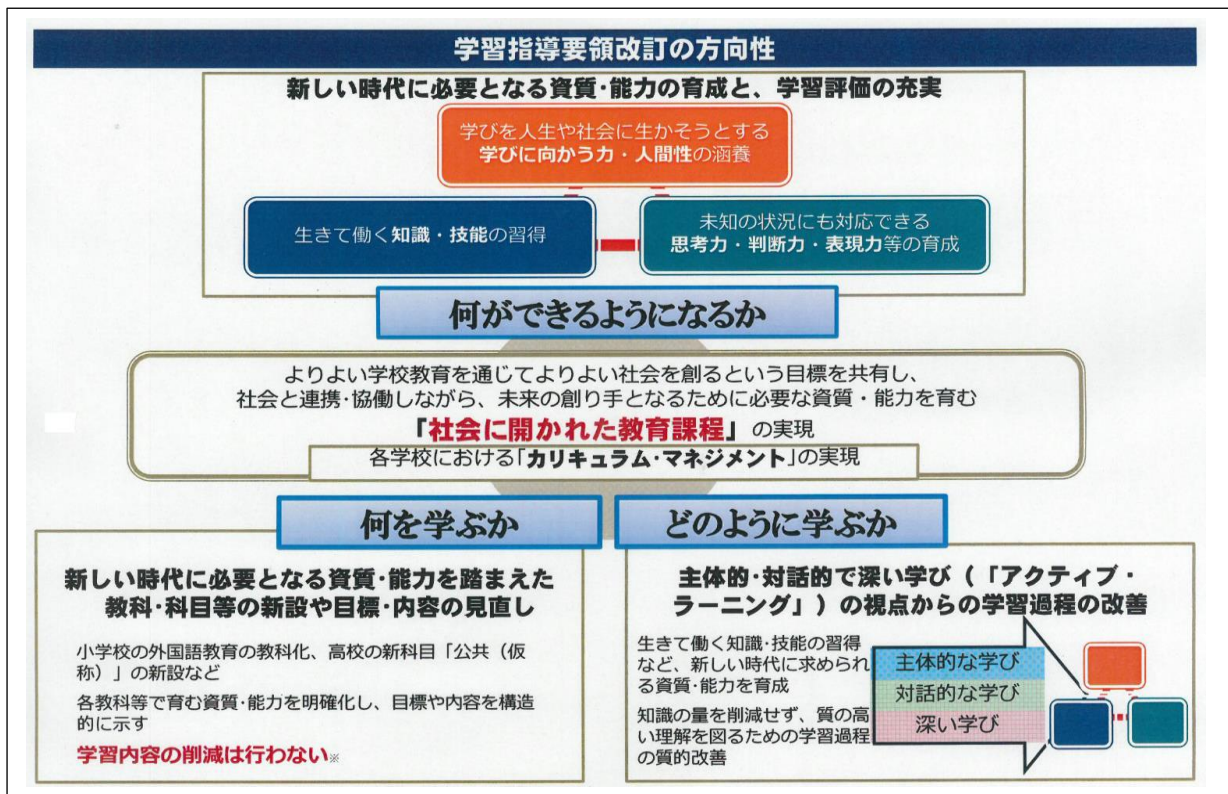
目次

はじめに	P. 1
I 育成を目指す資質や能力	P. 2
1 育成を目指す資質・能力の設定と共有	P. 2
(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱について	P. 2
(2) 育成を目指す資質・能力の共有	P. 3
2 国語科において育成を目指す資質・能力	P. 4
(1) 国語科において育成を目指す資質・能力	P. 4
(2) 国語科における「学習対象」と「見方・考え方」	P. 6
II 国語科における学習・指導の改善・充実	P. 7
1 資質・能力を育成する学びの過程の考え方	P. 7
2 「主体的・対話的で深い学び」の実現	P. 8
3 単元の構想と学習過程	P. 10
(1) 課題解決的な言語活動を位置付けた単元構想	P. 10
(2) 思考の過程をたどる単元構成	P. 11
(3) 資質・能力を育む学習過程	P. 12
III 学習評価の充実	P. 14
1 本研究における学習評価に対する基本的な考え	P. 14
2 国語科の評価の観点及びその趣旨	P. 15
3 評価規準の設定と評価の実際	P. 17
(1) 単元の評価規準の設定	P. 17
(2) 単位時間の評価規準の設定	P. 17
(3) 評価の実際	P. 17
IV 実践事例	P. 19
1 事例1 (中学校第3学年)	P. 19
2 事例2 (高等学校第2学年)	P. 33
3 2つの事例を振り返って (理論実現のための留意点)	P. 45
終わりに	P. 47

はじめに

平成 28 年 8 月，中央教育審議会教育課程企画特別部会は，次期学習指導要領の基本的な方針について「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（以下「審議のまとめ」という。）」（2016）にまとめました。また，同 12 月に「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（以下「答申」という）」（2016）を出しました。

それらの中で，次期学習指導要領について，子供たちの現状と課題を踏まえつつ，人間が学ぶことの本質的な意義や強みを改めて捉え直し，一人一人の学びを後押しできるよう，これまでの改訂の中心であった「何を学ぶか」という指導内容の見直しに留まらず，「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」までを見据えて改善を図る方向性が示されています。（【図 1】）



【図 1】学習指導要領改訂の方向性（「答申 概要」（2016）P.24）

また，「何ができるようになるか」という観点から整理された育成を目指す資質・能力（以下「三つの柱」という。）をバランスよく育むためには，「何を学ぶか」という指導内容等の見直しとともに，それらを「どのように学ぶか」という子供たちの具体的な学びの姿について「アクティブ・ラーニング」の視点からの見直しが欠かせないものとしています。

こうした流れを受け，本研究では，「三つの柱」を総合的に育むことを目指し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善の考え方について，授業改善の方策を構想し，実践を通して検証すること，ただし，指導法を一定の型にはめ狭い意味での授業方法や授業技術の改善に終始しないようにすることに留意し，提示していきたいと思います。

また，授業をより充実したものにしていくために，「生徒たちにどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉える学習評価の考え方，さらに，学習評価の内容を学習・指導方法の改善につなげていく考え方についても合わせて示したいと考えています。

これにより，次期学習指導要領に想定される学習・指導方法への移行がスムーズに図られるとともに，今後の授業実践が生徒たちにとっても，教員にとっても有意義なものになるよう活用していただければ幸いです。

1 育成を目指す資質・能力の設定と共有

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

全ての教科等や諸課題に関する資質・能力に共通し、それらを高めていくために重要となる要素について、育成を目指す資質・能力の「三つの柱」として整理され、「答申」（2016）において以下のように示されました。

① 「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）

- 各教科等において習得する知識や技能であるが、個別の事実に知識のみを指すのではなく、それらが相互に関連付けられ、さらに社会の中で生きて働く知識となるものを含むものである。
- 知識や技能は、思考・判断・表現を通じて習得されたり、その過程で活用されたりするものであり、また、社会との関りや人生の見通しの基盤ともなる。このように、資質・能力の三つの柱は相互に関係し合いながら育成されるものであり、資質・能力の育成は知識の質や量に支えられていることに留意が必要である。

② 「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」

- 将来の予測が困難な社会でも、未来を切り開いていくために必要な思考力・判断力・表現力である。思考・判断・表現の過程には、大きく分類して以下の三つがあると考えられる。
 - ・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程。
 - ・精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程。
 - ・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程。

③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

- 前述の①及び②の資質・能力を、どのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素であり、以下のような情意や態度等に関わるものが含まれる。こうした情意や態度等を育ていくためには、体験活動も含め、社会や世界との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていくことが重要となる。
 - ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考の過程等を客観的に捉える力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。
 - ・多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関するもの。

（「答申」（2016）PP. 28-31）

(2) 育成を目指す資質・能力の共有

各学校が地域や社会の変化を受け止めながら、学校教育目標や育成を目指す資質・能力を明確にし、その実現に向けて、各教科等がどのような役割を果たせるかという視点を持つことが、カリキュラム・マネジメント及びチーム学校を機能させ、日々の教育活動の充実に結び付けていくうえで重要です。

そこで、学校全体として育成を目指す資質・能力の設定と共有について、次のように考えました。

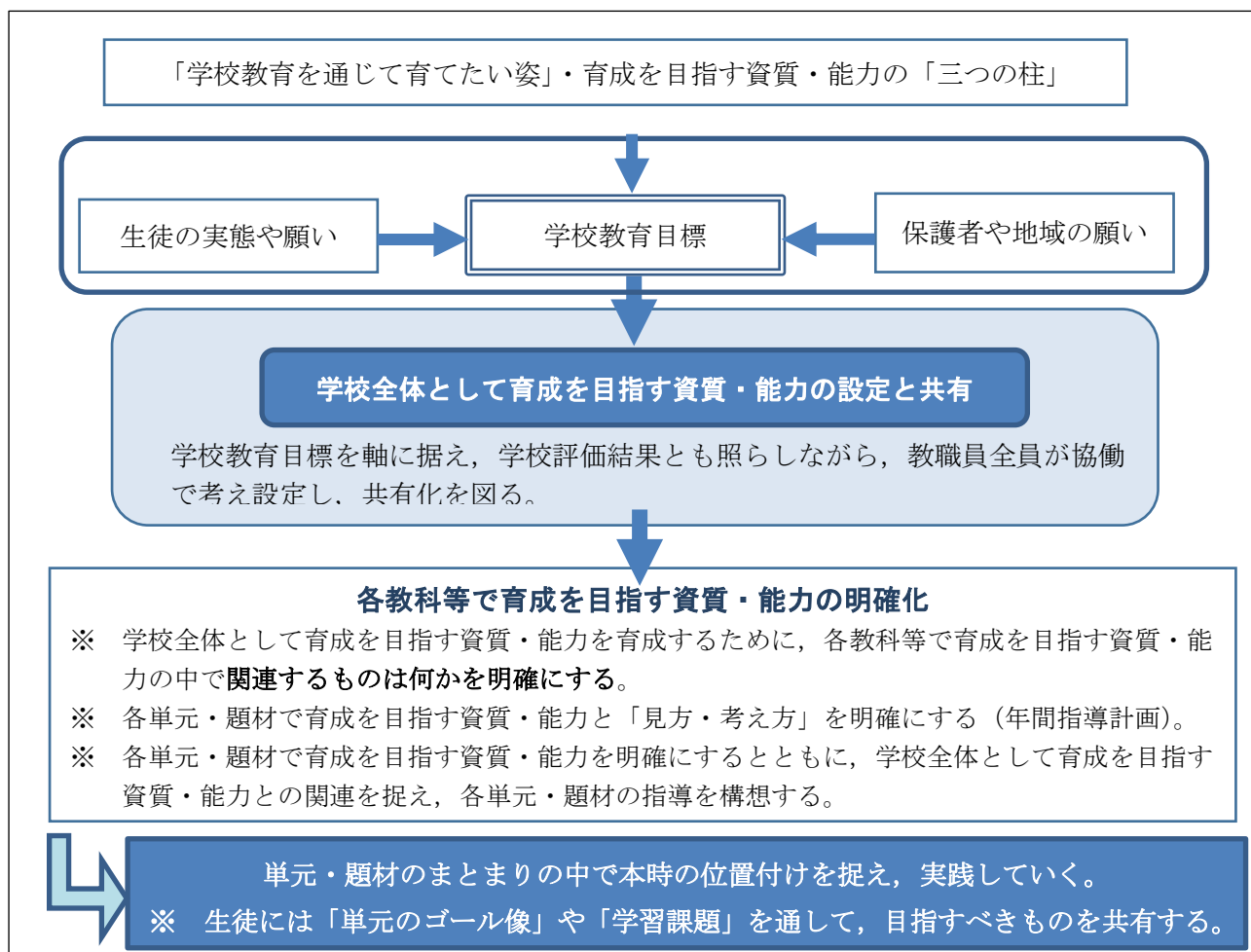
ア 学校全体として育成を目指す資質・能力の設定と共有

- ・学校教育を通じて育てたい姿や資質・能力の三つの柱を踏まえ、生徒の実態や生徒の願い、保護者や地域・社会の願いに基づき設定されている学校教育目標等を軸に据え、学校評価結果とも照らしながら、学校全体として育成を目指す資質・能力を設定する。
- ・教職員全員が協働で考え設定することを通し、共有化と主体化を図る。

イ 各教科等で育成を目指す資質・能力

- ・学校全体として育成を目指す資質・能力を育成するために、各教科等で育成を目指す資質・能力の中で関与するものは何かを明確にし、年間指導計画等に位置付ける。
- ・各単元・題材で育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、学校全体として育成を目指す資質・能力との関連を捉え、各単元・題材の指導を構想する。

学校全体として育成を目指す資質・能力の設定と共有における考え方を下の【図2】に示します。



【図2】学校全体として育成を目指す資質・能力の設定と共有における考え方

2 国語科において育成を目指す資質・能力

(1) 国語科において育成を目指す資質・能力

「答申」(2016)では、国語科において育成を目指す資質・能力を、「知識・技能」,「思考力・判断力・表現力等」,「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って整理を行い、次の【表1】のとおり取りまとめたものを示しています。

【表1】国語科において育成を目指す資質・能力の整理(「答申 別添資料」(2016) P.2 より)

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<p>○言葉の働きや役割に関する理解</p> <p>○言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き言葉(文字), 話し言葉, 言葉の位相(方言, 敬語等) ・語, 語句, 語彙 ・文の成分, 文の構成 ・文章の構成(文と文の関係, 段落, 段落と文章の関係)など <p>○言葉の使い方に関する理解と使い分け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し方, 書き方, 表現の工夫 ・聞き方, 読み方, 音読・朗読の仕方 ・話合いの仕方 <p>○書写に関する知識・技能</p> <p>○伝統的な言語文化に関する理解</p> <p>○文章の種類に関する理解</p> <p>○情報活用に関する知識・理解</p>	<p>国語で理解したり表現したりするための力</p> <p>【創造的・論理的思考の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 情報を多面的・多角的に精査し, 構造化する力 <ul style="list-style-type: none"> ・推論及び既有知識・経験による内容の補足, 精緻化 ・論理(情報と情報の関連性: 共通一相違, 原因一結果, 具体一抽象等)の吟味・構築 ・妥当性, 信頼性等の吟味 ▶ 構成・表現形式を評価する力 <p>【感性・情緒の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 言葉によって感じたり想像したりする力, 感情や想像を言葉にする力 ▶ 構成・表現形式を評価する力 <p>【他者とのコミュニケーションの側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 言葉を通じて伝え合う力 <ul style="list-style-type: none"> ・相手との関係や目的, 場面, 文脈, 状況等の理解 ・自分の意思や主張の伝達 ・相手の心の想像, 意図や感情の読み取り ▶ 構成・表現形式を評価する力 <p>《考えの形成・深化》</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 考えを形成し深める力(個人または集団として) <ul style="list-style-type: none"> ・情報を編集・操作する力 ・新しい情報を, 既にもっている知識や経験, 感情に統合し構造化する力 ・新しい問いや仮説を立てるなど既にもっている考えの構造を転換する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がもつ曖昧性や, 表現による受け取り方の違いを認識した上で, 言葉がもつ力を信頼し, 言葉によって困難を克服し, 言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度 ・言葉を通じて, 自分のものの見方や考え方を広げ深めようとするとともに, 考えを伝え合うことで, 集団としての考えを発展・深化させようとする態度 ・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にすることで自覚するとともに, それらの言葉を互いに交流させることを通して, 心を豊かにしようとする態度 ・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり, 自己を表現し, 他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め, 尊重しようとする態度 ・我が国の言語文化を享受し, 生活や社会の中で活用し, 継承・発展させようとする態度 ・自ら進んで読書をし, 本の世界を想像したり味わったりするとともに, 読書を通して, 様々な世界に触れ, これを擬似的に体験したり知識を獲得したり新しい考えに出会ったりするなどして, 人生を豊かにしようとする態度

【表1】補足

<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>○言葉の働きや役割に関する理解</p> <p>○言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き言葉（文字），話し言葉，言葉の位相（方言，敬語等） ・語，語句，語彙 ・文の成分，文の構成 ・文章の構成（文と文の関係，段落，段落と文章の関係）など <p>○言葉の使い方に関する理解と使い分け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し方，書き方，表現の工夫 ・聞き方，読み方，音読・朗読の仕方 ・話合いの仕方 <p>○書写に関する知識・技能</p> <p>○伝統的な言語文化に関する理解</p> <p>○文章の種類に関する理解</p> <p>○情報活用に関する知識・理解</p>	<p style="text-align: center;">言葉に対するメタ認知</p> <p>「『言葉の働きや役割に関する理解』は，自分が用いる言葉に対するメタ認知に関わることであり，言語能力を向上させる上で重要な要素」（「答申」（2016）P. 125）</p> <p style="text-align: center;">「知識・技能」に位置付け</p> <p>「これまで『知識・技能』としては明確に位置付けられてこなかった，話したり聞いたり書いたり読んだりする技能を含むものとしている」</p> <p>（「国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」（2016）P. 5）</p> <p>「資質・能力の育成は知識・技能の質や量に支えられていることに留意が必要である」（「答申」（2016）PP. 29-30）</p>
<p style="text-align: center;">思考力・判断力・表現力等</p> <p>国語で理解したり表現したりするための力</p> <p>【創造的・論理的思考の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 情報を多面的・多角的に精査し，構造化する力 <ul style="list-style-type: none"> ・推論及び既有知識・経験による内容の補足，精緻化 ・論理（情報と情報の関連性：共通－相違，原因－結果，具体－抽象等）の吟味・構築 ・妥当性，信頼性等の吟味 ▶ 構成・表現形式を評価する力 <p>【感性・情緒の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 言葉によって感じたり想像したりする力，感情や想像を言葉にする力 ▶ 構成・表現形式を評価する力 <p>【他者とのコミュニケーションの側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 言葉を通じて伝え合う力 <ul style="list-style-type: none"> ・相手との関係や目的，場面，文脈，状況等の理解 ・自分の意思や主張の伝達 ・相手の心の想像，意図や感情の読み取り ▶ 構成・表現形式を評価する力 <p>《考えの形成・深化》</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 考えを形成し深める力（個人または集団として） <ul style="list-style-type: none"> ・情報を編集・操作する力 ・新しい情報を，既にもっている知識や経験，感情に統合し構造化する力 ・新しい問いや仮説を立てるなど既にもっている考えの構造を転換する力 	<p style="text-align: center;">創造的・論理的思考</p> <p>「これからの子供たちには，創造的・論理的思考を高めるために，『思考力・判断力・表現力等』の『情報を多面的・多角的に精査し，構造化する力』がこれまで以上に必要」（「答申」（2016）P. 125）</p> <p style="text-align: center;">感情コントロール</p> <p>「自分の感情をコントロールすることにつながる『感情や想像を言葉にする力』（「答申」（2016）P. 125）</p> <p style="text-align: center;">他者との協働</p> <p>「他者との協働につながる『言葉を通じて伝え合う力』（「答申」（2016）P. 125）</p> <p style="text-align: center;">より深く</p> <p>「より深く，理解したり表現したりするには，（中略）『考えを形成し深める力』を育成することが重要」（「答申」（2016）P. 125）</p>

(2) 国語科における「学習対象」と「見方・考え方」

「答申」(2016)には、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」が示されています。「見方・考え方」は、将来にわたって使い続ける「道具」のようなものだと考えています。だからこそ、子供たちが十分に使いこなすことができるようにしていかなければなりません。

国語科において示されたことを、【表2】のようにまとめました。本研究における「見方・考え方」を具体の単元に当てはめた場合の例とその構造(【表3】)を考えました。

【表2】国語科における「学習対象」と「見方・考え方」(「答申」(2016) P.126 より作成)

<p>国語科の学習対象</p>	<p>国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するか、という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象とする</p>	<p>国語科の学習対象(補足)</p>
<p>国語科における重要な学び</p>	<p>事物、経験、思い、考え等を言葉で理解したり表現したりする際には、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、創造的・論理的思考、感性・情緒、他者とのコミュニケーションの側面から、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味付けるといったことが行われており、そのことを通して、自分の思いや考えを形成し深めることが、国語科における重要な学び</p>	<p>「様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的とするものではない」 (「答申」(2016) P.126)</p>
<p>国語科における「見方・考え方」</p>	<p>(対象に対する)自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること</p>	<p>「見方・考え方」(例示)</p> <p>例えば、「二つの新聞社説について、見出し・トピック・構成等を視点として共通点や相違点を捉える学習」の場合 次のような「見方・考え方」が働く。</p> <p>新聞記事の表現・内容に対する自分や他の人の考えを広げたり、深めたりするため、同一テーマの複数社説を「見出し」「トピック」「構成」「内容」に着目して捉え、二つの社説を関連させることでそれぞれの特徴を見直して意味付け、言葉で表現すること。</p>

【表3】単元で働く「見方・考え方」の構造(本研究により担当者作成)

<p>(場・対象)</p>	<p>新聞社説の表現・内容に対する</p>
<p>(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>自分や他の人の考えを広げたり、深めたりするため、</p>
<p>(知識・技能)</p>	<p>同一テーマの複数社説を「見出し」「トピック」「構成」「内容」に着目して捉え、</p>
<p>(思考力・判断力・表現力等)</p>	<p>二つの社説を関連させることでそれぞれの特徴を見直して意味付け、言葉で表現すること。</p>

1 資質・能力を育成する学びの過程の考え方

「答申」(2016)には、資質・能力を育成する学びの過程の考え方について、以下のように述べられています。

- 国語科においては、ただ活動するだけの学習にならないよう、活動を通じてどのような資質・能力を育成するのかを示す
- 言語能力の働く過程の整理を踏まえ、「認識から思考へ」という過程の中で働く理解するための力や、「思考から表現へ」という過程の中で働く表現するための力が、各領域の中で、主にどこで重点的に働いているのか
- 国語科で育成を目指す資質・能力の向上を図るためには、資質・能力が働く一連の学習過程をスパイラルに繰り返すとともに、一つ一つの学習活動において資質・能力の育成に応じた言語活動を充実することが重要

(「答申」(2016) PP.126-127)

コラム「筋トレに似ている…?」

「短距離走のスピードを上げる」

これを単元に位置付けた言語活動とします。

（走行フォームの安定のため、腹筋・背筋を強化する
腕の振りを強化するため、胸と肩の筋肉を強化する
ストライドを伸ばすため、ふくらはぎと太ももの筋肉を強化する

これが単位時間ごとの言語活動になります。

- 筋肉を付けるには、付けたい筋肉を働かせなければならない
【資質・能力を育成するには、付けたい資質・能力を働かせなければならない】
⇒ 付けたい筋肉を十分に働かせた授業だったでしょうか・・・
単元のゴールに向かって必要な筋肉を働かせていたでしょうか・・・

- 効果的な筋トレは、働かせている筋肉を十分に意識すること
【この学習活動でどんな資質・能力を働かせているのかを十分に意識させる】

- 太もも上部の筋肉を使っているということを意識しながらスクワットをするとただスクワットをやるより効果的
【ただ活動をさせるのではなく、どんな力を使っているか、どんな力を付けようとしているのかを意識させたい】
⇒ 働かせている筋肉を意識していたでしょうか、意識させていたでしょうか・・・

- 筋トレは1日やってもあまり意味はない、繰り返すことで力になる
【スパイラルに繰り返していくことが大事】



2 「主体的・対話的で深い学び」の実現

「答申」(2016)には、「主体的・対話的で深い学び」について、以下のように述べられています。

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、特定の指導方法のことも、学校教育における教員の意図性を否定することでもない。人間の生涯にわたって続く「学び」という営みの本質を捉えながら、教員が教えることにしっかりと関わり、子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことである。

(「答申」(2016) P.49)

「主体的・対話的で深い学び」の視点を以下のように示しています。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見い出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

(「答申」(2016) PP.49-50)

この三つの視点の位置付けについて次のように述べられています。

- 三つの視点は、子供の学びの過程としては一体として実現されるものであり、また、それぞれ相互に影響し合うものでもあるが、学びの本質として重要な点を異なる側面から捉えたものであり、授業改善の視点としてはそれぞれ固有の視点であることに留意が必要である。

(「答申」(2016) P.50)

これまでの学習とのつながりについては、次のように述べられています。

- 国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善とは、アクティブ・ラーニングの視点から言語活動を充実させ、子供たちの学びの過程の更なる質の向上を図ることであると云える。(「答申」(2016) P.127)
- 今までの授業時間とは別に新たに時間を確保しなければならないというのではなく、現在既に行われているこれらの活動(言語活動等)を、「主体的・対話的で深い学び」の視点で改善し、単元や題材のまとまりの中で指導内容を関連付けつつ、質を高めていく工夫が求められていると云えよう。(「答申」(2016) P.51)

「答申」(2016)において示されている国語科における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現する学習・指導の改善・充実の視点は、次ページ【表4】の通りです。本研究におけるそれぞれの視点の実現に必要な学習活動の例を考え、【表4】の右に示しました。

【表4】「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて（「答申」（2016）P.130-131 より作成）

		学習活動の例
「主体的な学び」 の実現に向けて	<p>○子供自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場면을計画的に設けること</p> <p>○子供たちの学ぶ意欲が高まるよう、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題として、子供たちに身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりすること</p> <p>○学習を振り返る際、子供自身が自分の学びや変容を見取り自分の学びを自覚することができ、説明したり評価したりすることができるようになること</p>	<p>○一次の充実を目指した単元構想等を設定する 「読書目的の設定」 「表現モデルの分析」 「学習計画の立案」など ・魅力的な表現モデルの提示 ・課題を遂行のために必要な力と課題を遂行することによって身に付く力の分析と、それを定着させるのに有効な学習計画</p> <p>○単元に実社会や実生活との関わりを重視した課題解決的な言語活動を位置付ける ・本時のゴールが明確な学習課題 ・単元のゴールと言語活動の関連が見える学習課題</p>
「対話的な学び」 の実現に向けて	<p>○子供同士、子供と教職員、子供と地域の人が、互いの知見や考えを伝え合ったり議論したり協働したりすることや、本を通して作者の考えに触れ自分の考えに生かすことなどを通して、互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場면을計画的に設けること</p>	<p>○振り返りの方法、視点、活用の充実を図る ・振り返りシート等の使用（形式・使用するタイミング） ・学びの方法（方法知）と内容（内容知）についての子供自身の自覚</p>
「深い学び」 の実現に向けて	<p>○「言葉に対する見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設けること</p> <p>○子供自身が自分の思考の過程をたどり、自分が理解したり表現したりした言葉を、創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面からどのように捉えたのか問い直して、理解し直したり表現し直したりしながら思いや考えを深めること</p> <p>○思考を深めたり活性化させたりしていくための語彙を豊かにすること</p>	<p>○他者との議論や協働等が充実する単元構成を設定する ○子供たちがお互いの立場や存在を尊重し、相手や目的、条件などを踏まえて表現する学習活動を設定する。 ・対話による学習効果（メリット）の共有 ・対話の相手や時間など学習者による何らかの判断や選択</p> <p>○自分の思いや考えを広げ深められる単元課題を設定する</p> <p>○思考の過程をたどることができる単元構成を設定する ・共通教材⇒並行読書材 ・共通教材での表現⇒共通教材での再表現</p>

3 単元の構想と学習過程

「答申」（2016）には、単元等のまとまりを見通した学びの実現について、以下のように述べられています。

- 「主体的・対話的で深い学び」は、1 単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材のまとまりの中で、例えば主体的に学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、学びの深まりを作り出すために、子供が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で実現されていくことが求められる。
- 各学校の取組が、毎回の授業の改善という視点を超えて、単元や題材のまとまりの中で、指導内容のつながりを意識しながら重点化していけるような、効果的な単元の開発や設定に関する研究に向かうものとなるよう、単元等のまとまりを見通した学びの重要性や、評価の場面との関係などについて、総則などを通じてわかりやすく示していくことが求められる。

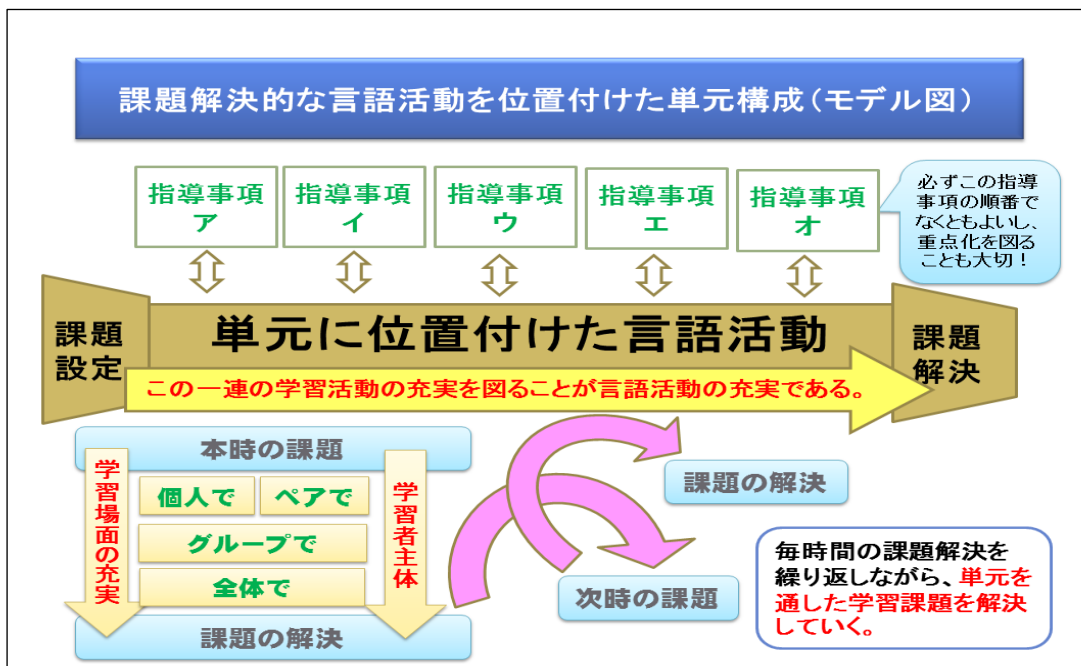
（「答申」（2016）P.52）

（1）課題解決的な言語活動を位置付けた単元構成

国語科では、これまでも単に「話す・聞く・書く・読む」ことを言語活動と捉えるのではなく、単元を通して大きな課題を解決することを言語活動と捉えて効果的な単元開発を目指してきているところです。

本研究では、実社会や実生活との関わりを重視した課題を言語活動として位置付け、基礎的・基本的な知識・技能を活用して解決する中で、思考・判断・表現し、自分の思いや考えを広げ深めていく単元を求めています。

当センターが昨年まとめた研究報告書を参考に、課題解決的な言語活動を位置付けた単元構成のモデルを【図3】に示します。



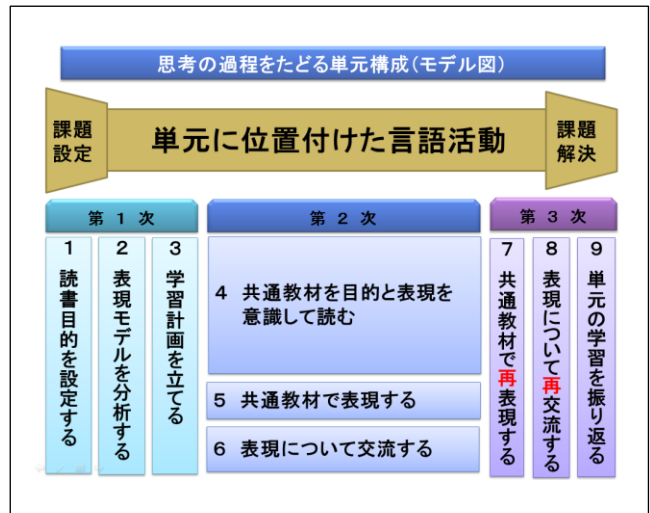
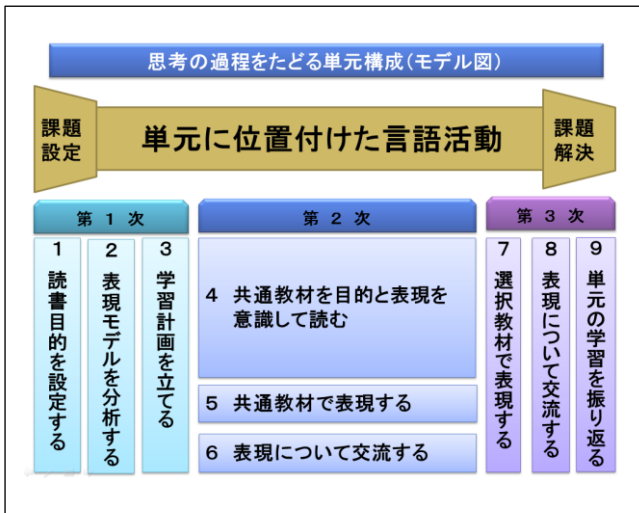
【図3】課題解決的な言語活動を位置付けた単元構成のモデル

（「学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科の指導法に関する研究—学びの連続性を考慮し、言語活動の充実を図る授業づくり—研究報告書」（2016）P.5 を一部変更）

(2) 思考の過程をたどる単元構成

「深い学び」の実現に向けて、「子供自身が自分の思考の過程をたどり、自分が理解したり表現したりした言葉を、理解し直したり表現し直したりしながら思いや考えを深めること」のためには、「理解し直したり」「表現し直したり」する活動を単元に位置付ける必要があると考えます。

当センターでの昨年まとめた研究報告書（「学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科の指導法に関する研究—学びの連続性を考慮し、言語活動の充実を図る授業づくり—研究報告書」（2016））を参考に「思考の過程をたどる単元構成」についてモデル図を作成しました。【図4】【図5】に示します。



【図4】思考の過程をたどる単元構想
(ア 共通教材⇒並行読書材)

【図5】思考の過程をたどる単元構想
(イ 共通教材での表現⇒共通教材での再表現)

コラム「ワックスの二度塗り」

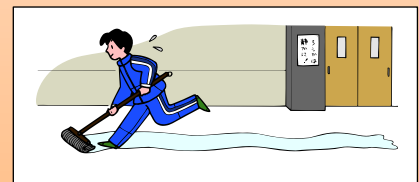
ワックスを二度塗りすると、一度塗りよりも「つやが出る」「深みが出る」
ワックスを二度塗りすると、二度目の方が、一度目よりもなぜか「ていねいになる」

一度目は、塗り方を教えられながら実行する。もちろん子供たちはまじめにやってくれるのだが、あくまで「義務感」が強い。

ところが、一度目がある程度乾き、二度塗りをやり始めると俄然主体的になる。塗り方を工夫したり、塗りむらがないように何度も確認したり、万全の仕上がりになるようがんばるもの。

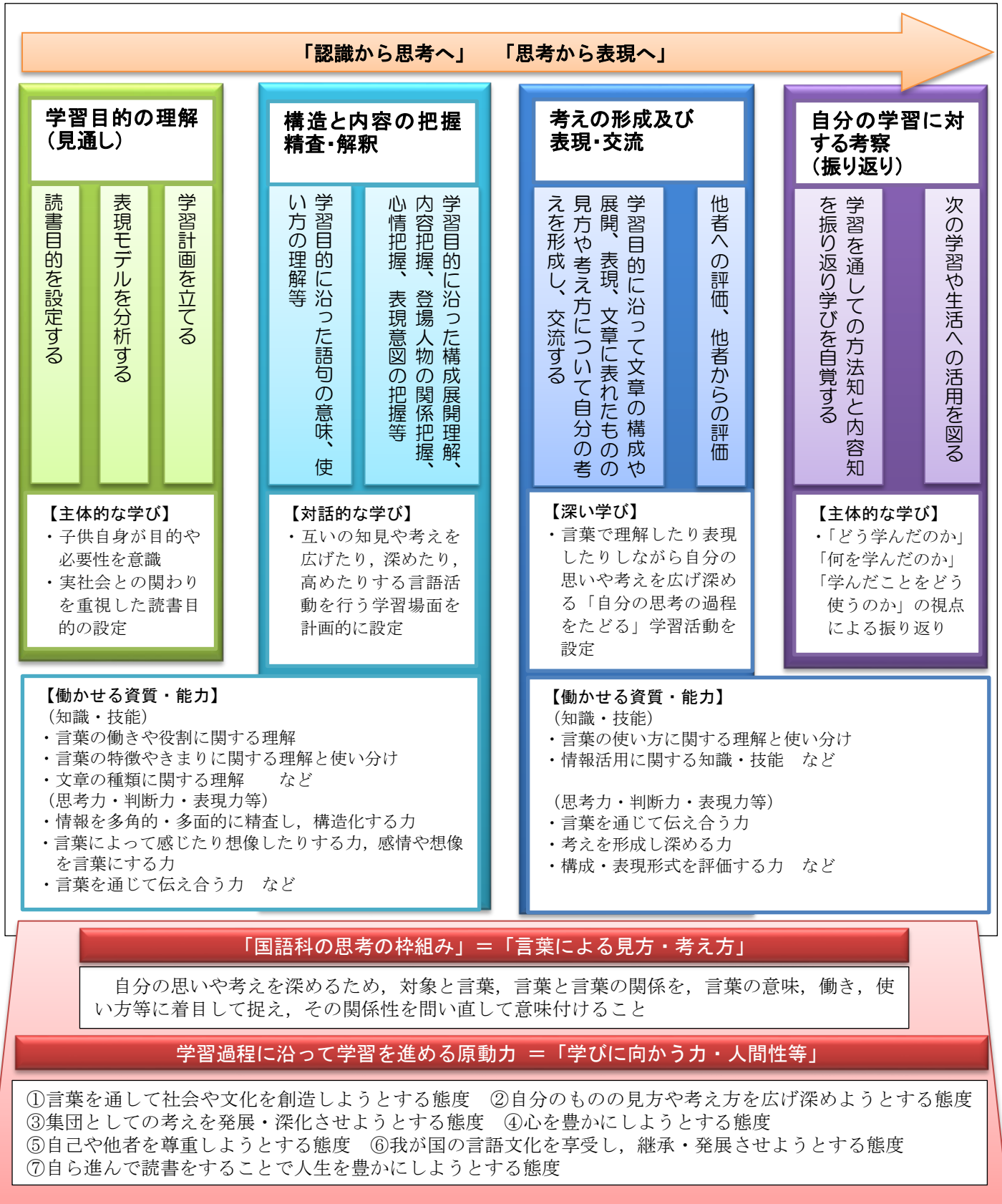
単純に2度目の方がうまくやりたいという思い
2度目こそが自分の成果であるとの思いなどなど
・・・いろいろあるのだろう。

「思考の過程をたどる」ことで「深い学び」につなげていこうというのもそういうことだと理解しているところです。



(3) 資質・能力を育む学習過程

言葉による「見方・考え方」と「学びに向かう力、人間性等」を土台としての、学習活動の段階や学習内容における「アクティブ・ラーニング」の3つの視点の位置付け、学習活動内で働かせる、資質・能力について整理し、本研究の基本となる学習過程例（読むこと）を【図6】に示します。



【図6】資質・能力を育む学習過程例（読むこと）（「答申 別添資料」（2016）P.5 を参考に三つの視点の位置付け等を加えて作成）

【図6】補足

学習過程例の見方

「認識から思考へ」 「思考から表現へ」

学習目的の理解
(見通し)

読書目的を設定する
表現モデルを分析する
学習計画を立てる

【主体的な学び】

・子供自身が目的や必要性を意識
・実社会との関わりを重視した読書目的の設定

構造と内容の把握
精査・解釈

学習目的に沿った構展開理解、内容把握、登場人物の関係把握、心情把握、表現意図の把握等
学習目的に沿った語句の意味、使い方の理解等

【対話的な学び】

・互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場면을計画的に設定

【働かせる資質・能力】
(知識・技能)

・言葉の働きや役割に関する理解
・言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け
・文章の種類に関する理解 など
(思考力・判断力・表現力等)
・情報を多角的・多面的に精査し、構造化する力
・言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
・言葉を通じて伝え合う力 など

「国語科の思考の枠組み」
＝「言葉による見方・考え方」

学習過程に沿って学習を進める原動力
＝「学びに向かう力・人間性等」

本シートの目的

このワンシートで
ア 授業づくりの視点
イ 授業参観の視点
ウ 校内研の視点
エ 不断の授業改善の視点
になることを目指しました。

学習活動の段階

ここでは、「どのような学習の段階なのか」を示しています。
学習活動の大きな流れをつかみます。

学習の内容

その段階では、「どのような学習内容・学習活動を行うのか」を示しています。

三つの視点の位置付け

ここでは、各学習の段階において「主にどの視点を意識して授業づくりをするのか」を示しています。

働かせる資質・能力

その活動を通じて「どのような資質・能力を育成するのか」その活動の遂行にあたって「どの資質・能力を働かせるのか」を示しています。

土台として

「言葉による見方・考え方」「学びに向かう力・人間性等」が学びの中核や原動力となることを示しています。

1 本研究における学習評価に対する基本的な考え

「答申」(2016)には、学習評価の意義について、以下のように述べられています。

○学習評価は、学校における教育活動に関し、子供たちの学習状況を評価するものである。「子供たちにどういった力が身に付いたか」という学習成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、この学習評価が極めて重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性をもった形で改善を進めることが求められる。(「答申」(2016) P.60)

また、評価の観点や評価場面については、以下のように述べられています。

○観点別評価については、目標に準拠した評価の実質化や、教科・校種を超えた共通理解に基づく組織的な取組を促す観点から、小・中・高等学校の各教科を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理することとし、指導要録の様式を改善することが必要である。(「答申」(2016) P.61)

○これらの観点については、毎回の授業で全てを見取るのではなく、単元や題材を通じたまとまりの中で、学習・指導方法と評価の場面を適切に組み立てていくことが重要である。(「答申」(2016) PP.61-62)

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、以下のように述べられています。

○評価の観点のうち「主体的に学習に取り組む態度」については、学習前の診断的評価のみで判断したり、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動で評価したりするものではない。子供たちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしていたりしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる。(「答申」(2016) P.62)

多面的多角的な評価については、以下のように述べられています。

○資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組みせるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。(「答申」(2016) P.63)

自己評価については、以下のように述べられています。

○子供一人一人が、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようなことが重要である。そのため、子供たちが自己評価を行うことを、教科等の特質に応じて学習活動の一つとして位置付けることが適当である。(「答申」(2016) P.63)

本研究においては、次の6点に留意し、研究実践を進めました。

本研究実践における学習評価

- ア 学習評価の目的は、「学習成果の把握」「教員の指導改善」「学習者の学びの推進力」とする。
- イ 評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点とする。
- ウ 単元の中に、学習・指導方法と評価の場面を適切に組み入れる。
- エ 評価規準は「子供たちにどういった力が身に付いたか」を子供の姿として示す。
- オ 単元に課題解決的な言語活動を位置付け、パフォーマンス評価を行っていく。
- カ 学習活動の中に自己評価を位置付ける。

2 国語科の評価の観点及びその趣旨

本研究実践にあたっては、中央教育審議会教育課程企画特別部会国語ワーキンググループによる「国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（以下「国語WG審議のまとめ」という）」（2016）による「国語科における評価の観点のイメージ」【表5】を参考としました。

【表5】国語科における評価の観点のイメージ（「国語WG審議のまとめ」（2016）資料4より作成）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
高等学校	生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質について理解し適切に使うことができている。	創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を豊かにし、多様な他者や社会との関わりの中で、国語で的確に理解し効果的に表現することを通して自分の思いや考えを深めている。	言葉を通じて積極的に多様な他者や社会と関わったり、思いや考えを深めたりしようとするとともに、言葉の意義を認識し、自覚的に読書に取り組み、言葉を効果的に使おうとしている。
中学校	社会生活に必要な国語の特質について理解し適切に使うことができている。	創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を豊かにし、社会生活における人との関わりの中で、国語で正確に理解し適切に表現することを通して自分の思いや考えを深めている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしようとするとともに、言葉の価値を認識し、進んで読書に取り組み、言葉を適切に使おうとしている。
小学校	日常生活に必要な国語の特質について理解し使うことができている。	創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、日常生活における人との関わりの中で、国語で正確に理解し適切に表現することを通して自分の思いや考えを深めている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしようとするとともに、言葉のよさを味わい、読書に取り組み、言葉をよりよく使おうとしている。

現行の国語科においては、「(国語への) 関心・意欲・態度」, 「話す・聞く能力」, 「書く能力」, 「読む能力」, 「(言語についての) 知識・理解 (・技能)」の観点で評価していますが, 前頁で記した通り本研究においては、「知識・技能」 「思考・判断・表現」 「主体的に学習に取り組む態度」を観点として評価していきます。

その際, 現行の「言語についての知識・理解・技能」がそのまま「知識・技能」に関する観点に, 現行の「話す・聞く能力」, 「書く能力」, 「読む能力」がそのまま「思考力・判断力・表現力等」に関する観点に移行するものではないという点に留意が必要です。

現行では, 「話す・聞く能力」 「書く能力」 「読む能力」を基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付け, 「(言語についての) 知識・理解 (・技能)」は主に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関わって評価する観点として位置付けられています, 「国語科において育成を目指す資質・能力の整理」の「知識・技能」には, これまで「知識・理解」としては明確に位置付けられてこなかった, 話したり聞いたり書いたり読んだりする技能も含まれていることなどの違いがあります。

現行の評価の観点及びその趣旨について【参考1】 【参考2】に示します。

【参考1】 現行学習指導要領による高等学校国語の評価の観点及びその趣旨

(「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 国語】」 (2012) P.23 より)

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに, 言語文化に対する関心を深め, 国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じた効果的に話したり聞き取ったり, 話し合ったりして, 自分の考えをまとめ, 深めている。	相手や目的, 意図に応じた適切な表現による文章を書き, 自分の考えをまとめ, 深めている。	文章を的確に読み取ったり, 目的に応じて幅広く読んだりして, 自分の考えを深め, 発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり, 漢字などについて理解し, 知識を身に付けている。

【参考2】 現行学習指導要領による中学校国語の評価の観点及びその趣旨

(「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 国語】」 (2011) P.21 より)

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに, 国語に対する認識を深め, 国語を尊重しようとする。	目的や場に応じ, 適切に話したり聞いたり話し合ったりして, 自分の考えを豊かにしている。	相手や目的, 意図に応じ, 筋道を立てて文章を書いて, 自分の考えを豊かにしている。	目的や意図に応じ, 様々な文章を読んだり読書に親しんだりして, 自分の考えを豊かにしている。	伝統的な言語文化に親しんだり, 言葉の特徴やきまり, 漢字などについて理解し使ったりするとともに, 文字を正しく整えて速く書いている。

3 評価規準の設定と評価の実際

目標に準拠した評価を着実に実施するためには、各教科の目標だけでなく、領域や内容項目レベルの学習指導のねらいが明確になっている必要があります。そして、学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現されたというのは、どのような状態になっているかが具体的に想定されている必要があります。このような状況を具体的に示したものが「評価規準」であると捉えて、評価規準を設定しました。

(1) 単元の評価規準の設定

単元における評価規準については、以下のような考えのもとで設定しました。

- ア 「国語科における評価の観点のイメージ（本書P. 15）」において示された各観点の趣旨を「評価規準に盛り込むべき事項」とする。
- イ 単元の目標と言語活動を掛け合わせて設定する。

(2) 単位時間の評価規準の設定

単元における観点別学習状況の評価に係る最適な時期や方法を観点ごとに整理したものとして単位時間の評価規準を設定しています。

単位時間における評価規準については、以下のような考えのもとで設定しました。


- ア 「おおむね満足できる」状況と判断されるものについて【評価規準（B）】として示す。
- イ 「十分満足できる」状況と判断するための視点として【Aの視点（例）】を示す。これは、【評価規準（B）】に加えて、生徒がどのような姿であればよいのかを端的に示すこととする。
- ウ 「努力を要する」状況と判断された場合の手立てを【Cの手立て】として示す。


(3) 評価の実際

評価規準と評価について一例を示します。


2	<p>構造と内容の把握</p> <p>精査・解釈</p>	<p>【学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当社説の構成・展開について教科書社説での学びを生かして、可視化（色分け）しよう。 <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の社説の構成・展開の仕方をとらえ、色分けする。 ・自分の担当社説の構成・展開の仕方をとらえ、色分けする。 ・解説原稿3・4を記入する。 	<p>【評価規準（B）】（知・技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社説の構成・展開を読むための必要な観点を理解し、4色で色分けできている。 <p>【Aの視点（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的に、目的に沿って、色分けできている。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループによる協働及びつまづき予測による机間指導 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シート ・観察 ・振り返りの記述内容
---	--	--	--

【観察】
色分けできている。⇒B以上





【観察】
効率的に色分けができ、仲間にもアドバイスをしている。
⇒A

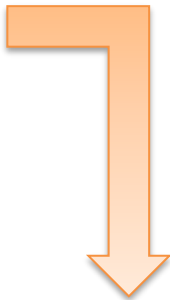


「今日は可視化することができた。可視化すると、構成・展開の違いが一目で分かる。」

【振り返り記述】
可視化の効用を理解している。
⇒A

3	考えの形成及び表現	<p>【学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社説の共通点や相違点を色分けから浮かび上がった特徴を使い、解説原稿にまとめよう。 <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の担当社説を比べ、構成や内容についての特徴を見直して意味付けたことを解説原稿5・6にまとめる。 	<p>【評価規準 (B)】 (思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> 二つの社説を比較し、共通点や相違点について言葉で表現するとともに、二つの社説を関連付けて自分の考えをもち、言葉で表現している。 <p>【Aの視点 (例)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 考察も含めて表現している。 自分の考えを見出しと関連させて表現している <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループによる協働及びつまづき予測による机間指導 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習シート ・ 観察 ・ 振り返りの記述内容
---	-----------	--	---

【学習シート】
 二つの社説を比較し、共通点や相違点について言葉で表現するとともに、二つの社説を関連付けて自分の考えをもち、言葉で表現している。
 ⇒B以上



【5 構成について】

各色のどれが分量として多いか、それはなぜだと考えられるか。

Aは青と緑の分量はそれほど変わらない。→現在の様子を包み隠さず伝えている。

Bは緑の面積の分量が多い。→「自然との付き合い方」を詳しく説明している。

構成のよさや改善点はあるか。

Aは、山の良さだけでなく、身近な事故や壊れる事が書かれているので「自分の責任感」を大切にしようと思う。

Bは、マケス面が、折入面にはマケス面より、更に、自分が気をつけてあげれば良いことと比べてとどめることが出来る。

【6 自分が思ったこと・考えたこと】

私にとって「山の日」は、深く考えた事のない祝日でした。

山という自然は、いつも危険が隣合わせだという事は分かっていました。しかし、事故の大半は何もない山道で起きているという事は初め知りませんでした。その危険を防ぐには、やはり「自分と向き合う」と、「自然との付き合い方」をいつも頭に入れておくことが大切だと思いました。

危険だけでなく、自然を生かした企画や登山を通じて、山の良さを知ることが出来ると思っています。「山の日」を通して、今後も山に関わる機会を増やし、誰もが楽しめる祝日になれば良いと思います。

書いてある「内容」を根拠として、読み手に伝わる印象を考察している。⇒A

書いてある「順序」を根拠として、読み手に伝わる印象を考察している。⇒A

A社説の見出し「山の日 自分と向き合う契機に」B社説の見出し「山の日 自然との付き合い方を学ぼう」と関連させて自分の考えを表現している。⇒A

IV 実践事例

事例1（中学校第3学年） 平成28年9月12日～16日

学 級：奥州市立水沢南中学校 3年5組 指導者：県立総合教育センター 早川 貴之

1 単元名

「ニュースの深層 ～社説を比べて解説しよう～」

- ・主 教材「新聞の社説を比較して読もう」（国語3 光村図書）
- ・補助教材「朝日新聞 平成28年8月5日, 11日, 20日, 23日」
「読売新聞 平成28年7月23日, 8月7日, 11日, 19日, 23日」
「産経新聞 平成28年7月23日」

※ 補助教材として、「リオ五輪開幕」「ポケモンGO」「山の日」「ホーム転落事故」「リオ五輪閉幕」について論じた社説を二紙並記して示した。

2 単元の目標及び単元で働く「見方・考え方」

(1) 単元の目標

【知識・技能】

- ・文章の展開の仕方を捉え、内容の理解に役立てることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・二つの文章を比べ、共通点や相違点を言葉で表現することができる。
- ・二つの文章を関連させて自分の考えをもち、言葉で表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・文章を読んで自分や他の人の考えを広げたり、深めたりしようとしている。

現行学習指導要領との関連 「C 読むこと」

イ 文章の論理の展開の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること

エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと

(2) 単元で働く「見方・考え方」

新聞社説の表現・内容に対する自分や他の人の考えを広げたり、深めたりするため、同一テーマの複数社説を「見出し」「トピック」「構成」「内容」に着目して捉え、二つの社説を関連させることでそれぞれの特徴を見直して意味付け、言葉で表現すること。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社説の構成・展開を読むための必要な観点を理解し、4色で色分けできている。	二つの社説を比較し、共通点や相違点について言葉で表現するとともに、二つの社説を関連付けて自分の考えをもち、言葉で表現している。	社説を読むことを通して、自分のものの見方や考え方を深めよとするとともに、言葉を通じて人と関わり、自分のみではなく他の人の考えを広げたり、深めたりしようとしている。

4 単元の指導と評価の計画（全4時間）

次	時	階	学習課題と主な学習活動	評価規準と評価方法
一	1	学習目的の理解	<p>【学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早川解説員の解説から，社説解説の意味を見だし，自分の解説についてのプランを立てよう。 <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現モデルを分析し，課題遂行に必要な力を見出すことからプランを立てる。 グループ内で取り組む社説を分担する。 解説原稿1・2を記入する。 	<p>【評価規準（B）】（主）</p> <ul style="list-style-type: none"> 社説解説によってどのような力が身に付くのかを考えている。 <p>【Aの視点（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の視点から考えている。 関連性，順序性を捉えて考えている。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 板書による可視化 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発言 ・ 観察 ・ 振り返りの記述内容
二	2	構造と内容の把握 精査・解釈	<p>【学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当社説の構成・展開について教科書社説での学びを生かして，可視化（色分け）しよう。 <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の社説の構成・展開の仕方を捉え，色分けする。 自分の担当社説の構成・展開の仕方を捉え，色分けする。 解説原稿3・4を記入する。 	<p>【評価規準（B）】（知・技）</p> <ul style="list-style-type: none"> 社説の構成・展開を読むための必要な観点を理解し，4色で色分けできている。 <p>【Aの視点（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 効率的に，目的に沿って，色分けできている。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループによる協働及びつまずき予測による机間指導 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習シート ・ 観察 ・ 振り返りの記述内容
	3	考えの形成及び表現・交流	<p>【学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社説の共通点や相違点を色分けから浮かび上がった特徴を使い，解説原稿にまとめよう。 <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の担当社説を比べ，構成や内容の特徴を見直して意味付けしたことを解説原稿5・6にまとめる。 	<p>【評価規準（B）】（思・判・表）</p> <ul style="list-style-type: none"> 二つの社説を比較し，共通点や相違点について言葉で表現するとともに，二つの社説を関連付けて自分の考えをもち，言葉で表現している。 <p>【Aの視点（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 考察も含めて表現している。 自分の考えを見出しと関連させて表現している <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループによる協働及びつまずき予測による机間指導 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習シート ・ 観察 ・ 振り返りの記述内容
三	4	自分の学習に対する考察	<p>【学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当社説をこれまでの準備を生かして全力で解説し，身に付いた力を確かめよう。 <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の成果を発揮してグループ内で交流する。 自他の考えが広がったり深まったりするように質問をしたり，感想を述べたりする。 単元の振り返りとして，何ができるようになったかを自分なりにまとめる。 	<p>【評価規準（B）】（主）</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉を通じて人と関わり，自分のみではなく他の人の考えを広げたり，深めたりしようとしている。 <p>【Aの視点（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の立場，存在を尊重している。 自分と関連させて深めている。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 練習（確認）時間の確保 ワークシートへの質問例の記載 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察 振り返りの記述内容

5 アクティブ・ラーニングの3つの視点に立った授業改善の提案

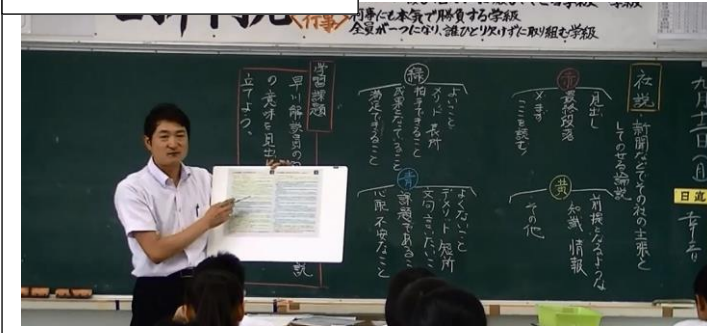
	「答申」の記述	実践内容
「主体的な学び」 の実現に向けて	<p>○子供自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場面を計画的に設けること</p> <p>○子供たちの学ぶ意欲が高まるよう、実社会や実生活との関わり重視した学習課題として、子供たちに身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師による課題の演示【1】 ・課題遂行のために必要な「力」を洗い出し、それによる学習プランの作成【2】 ・「学習の道しるべ」の活用による「見通しと振り返り」活動の充実【3】 ・実際の新聞社説を学習材化 ・ポケモンやオリンピック、山の日といった子供たちに身近な話題やホーム転落死といった社会問題に関わる話題の学習材化【4】
「対話的な学び」 の実現に向けて	<p>○互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場面を計画的に設ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ社説を選択しているもの同士のグループとそれぞれ違うものを選択しているグループの2つによる、学習目的に応じた使い分け【5】
「深い学び」 の実現に向けて	<p>○言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設ける</p> <p>○子供自身が自分の思考の過程をたどり、理解し直したり表現し直したりしながら思いや考えを深めることが重要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同一テーマによる複数社説を教材とし、内容や構成を言葉で理解し、理解したことをもとに社説解説として表現することを通して自分の思いや考えを広げ深める単元課題の設定【6】 ・教科書教材を共通教材として学習を進め、そこでの学びの過程をたどり、自己選択課題に取り組むことで不十分な理解が確かな理解へと深まっていく単元構成及び単位時間の設定【7】

6 本時の実際

(第1時)

	学 習 活 動	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導 入	1 教材への理解を深める。 (1) 社説の理解 (2) 社説の構成の理解 ・ 4色に色分けされた社説を読み、各色の色分けの意味について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社説とは何かを問い、社説への関心を高める。 ・ リオ五輪開幕について論じた2社の社説を4色で色分けしたものを配付し、関心を高める。 ・ 4色の色分けの意味について問うが、時間をかけずに説明に移る。
展 開	2 本時の学習課題を把握する。	
	<p>【学習課題】 早川解説員の解説から、社説解説の意味を見出し、自分の解説についてのプランを立てよう。</p>	
展 開	3 本時の課題を解決する。 (1) 表現モデルによりゴールの姿を理解する。 (2) 表現モデルを分析する。 ・ 単元の課題遂行のために求められる力、あるいは課題遂行により得られる力について考える。 ・ それらの力に順序付けを行い、学習プランを立てる。	<p>【実践内容 1】(主体的) 生徒の意欲・関心を高めるための、単元に位置付けた言語活動である社説解説の指導者による演示</p> <p>【実践内容 2】(主体的) 課題遂行のために必要な「力」を洗い出し、それによる学習プランの作成</p>
	<p>【まとめ】 課題を解決するために必要な力を考え、順序付けすることでプランとなる。</p>	
終 末	4 解説を担当する社説をグループで分担する。 (1) 3～4人グループ内で分担する。 (2) 分担にそって解説原稿の「1」「2」を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ポケモンGO」「山の日」「ホーム転落事故」「リオ五輪閉幕」について論じた社説を各グループそれぞれ一人ずつ担当する。 <p>【実践内容 4】(主体的) ポケモンやオリンピック、山の日といった子供たちに身近な話題やホーム転落死といった社会問題に関わる話題の学習材化</p>
	5 学習を振り返る。 6 次時の見通しをもつ。	<p>【実践内容 3】(主体的) 「学習の道しるべ」の活用による「見通しと振り返り」活動の充実</p>

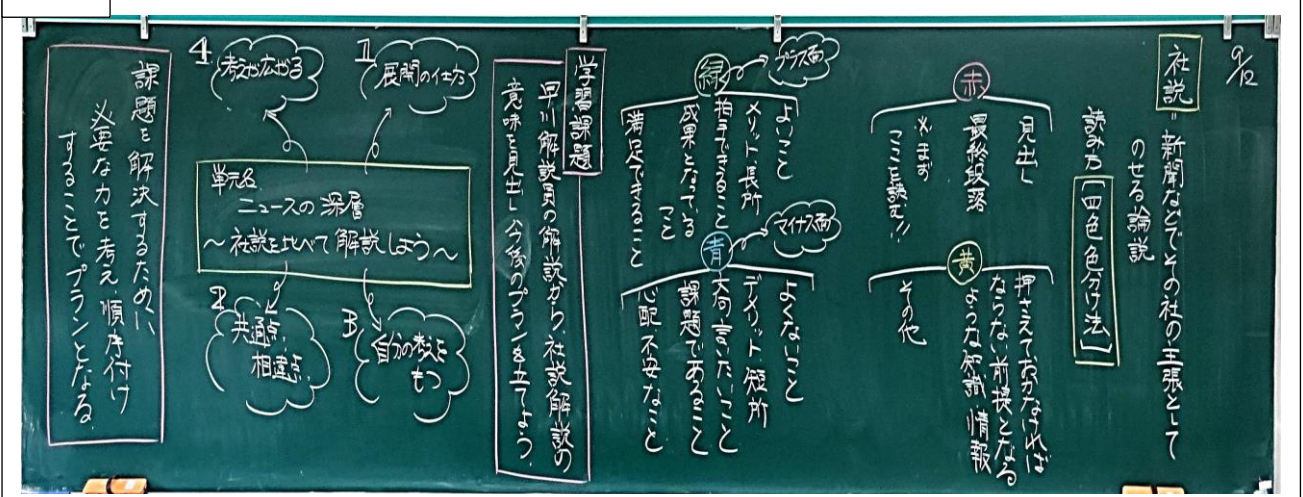
教師による表現モデルの演示



担当社説をグループで分担



板書



【生徒振り返り】

社説についてわかりました。解説を聞いて、自分もあのようになれるようにがんばりたいと思いました。次の時間もがんばっていきたいです。

【生徒振り返り】

今日は、解説を聞いて、どんなことをするのかや、今後の進め方についても知ることができた。色分けをされたものを見るとここにはどんなことが書かれているのかがとてもわかりやすかった。次回は自分も色分けをするのでがんばりたい。

【生徒振り返り】

始めに先生の社説の解説を聞いて、とてもイメージがわきやすく「やるぞ」という気持ちになりました。



【生徒振り返り】

社説を解説するためには、まず、自分が内容をよく理解すること、相手に伝える表現力を付けることが大切になってくるのでがんばりたい。

【参観者（学級担任）コメント】

ゴールを明確に提示し、意欲付けを図っていた。第1時に、単元のゴールの姿を提示することは、生徒たちに見通しをもたせる有効な手段であると感じた。

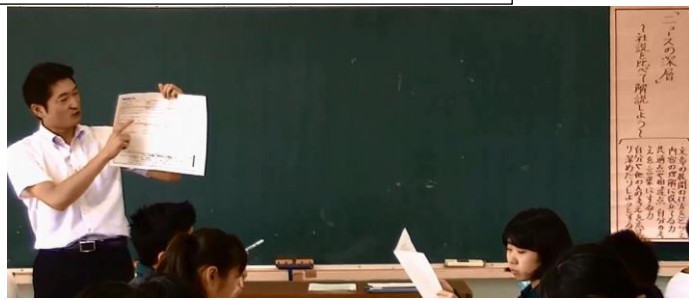
「付けたい力」を確認し、授業で意識させていた。どんな順番で学びが深まるのかを考えさせていた。



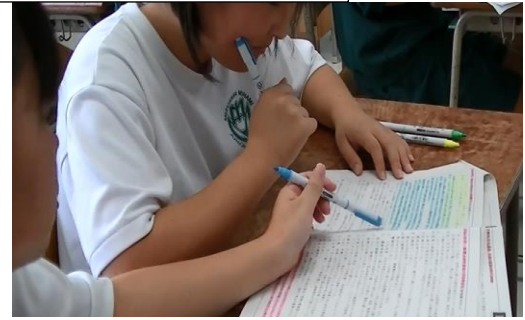
(第2時)

	学 習 活 動	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導 入	1 本単元のねらいと前時の学習を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 紙板書により単元名と付けたい力を表示することで意識化を図る。
	2 本時の学習課題を把握する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【学習課題】 担当社説の構成・展開について教科書社説での学びを生かして、可視化（色分け）しよう。 </div>		
展 開	3 本時の見通しをもつ。	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【実践内容 3】（主体的） 見通しをもたせるため「学習の道しるべ」の【目指す姿】の確認 </div> <ul style="list-style-type: none"> 個人での活動のあと、グループでの交流の時間を短時間設け、訂正や補強を図る。
	4 本時の課題を解決する。 (1) 共通テキストで4色色分けを行う。 <ul style="list-style-type: none"> 4色色分けの方法を確認し、色分けをする。 各色の内容について確認する。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【まとめ】 4色色分け法により、大きく展開を捉え、内容の理解に役立てることができる。 </div>		
開	(2) 選択テキストで4色色分けを行う。 <ul style="list-style-type: none"> 発表用フリップに清書する。 解説原稿「3」「4」を記入する。 	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【実践内容 7】（深い） 教科書教材を共通教材として学習を進め、そこでの学びの過程をたどり、自己選択課題取り組むことで不十分な理解が確かな理解へと深まっていく単元構成及び単位時間の設定 </div> <ul style="list-style-type: none"> 同一選択者同士のグループに組み替える。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【実践内容 5】（対話的） 同じ社説を選択しているもの同士のグループとそれぞれ違うものを選択しているグループの2つによる、学習目的に応じた使い分け </div>	
終 末	5 学習を振り返る。	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【実践内容 3】（主体的） 「学習の道しるべ」の活用による「見通しと振り返り」活動の充実 </div>
	6 次時の見通しをもつ。	

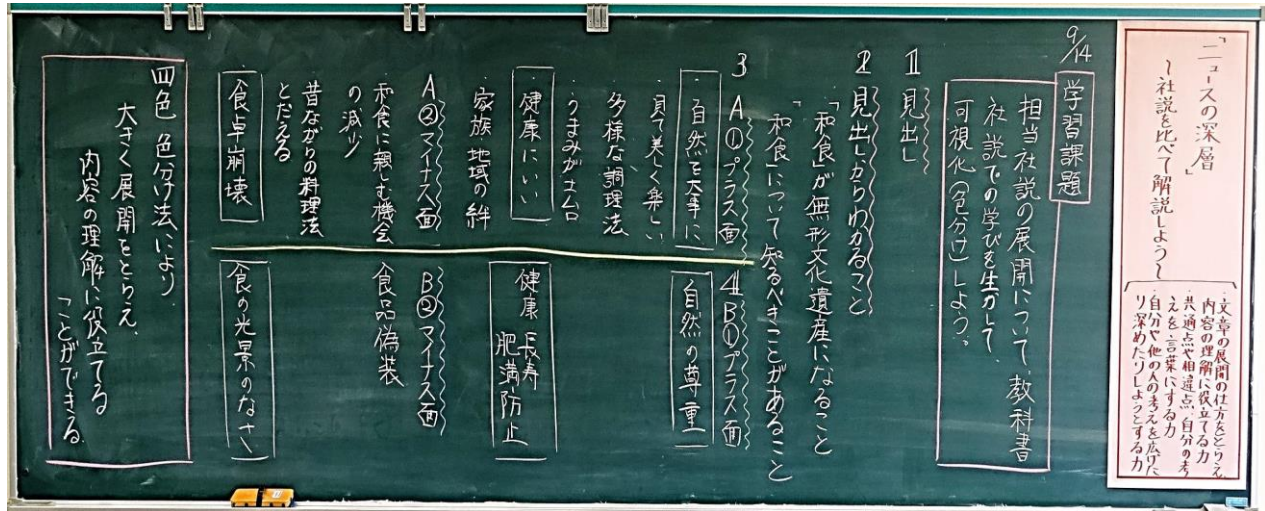
「学習の道しるべ」による【目指す姿の確認】



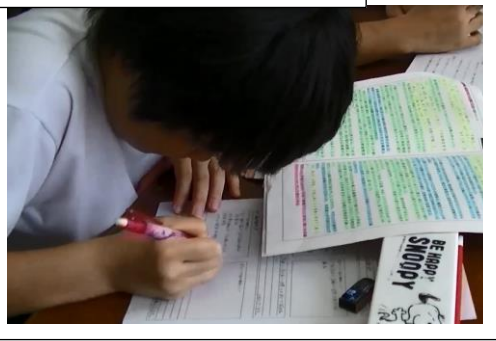
選択テキストでの4色色分け



板書



可視化のあと、解説原稿に記入



【生徒振り返り】

全て色分けすることができた。周りの人とも交流できたし、席を移動して同じのを選んだ人同士の交流はやりやすいと思いました。



【生徒振り返り】

今日は可視化することができた。可視化すると、どこがよい点でどこが悪い点なのかが一目でわかる。



【生徒振り返り】

色分けをするとき、自分で考え、プラス面とマイナス面が区別できるようになったので、ほかの新聞でもやってみたいと思った。

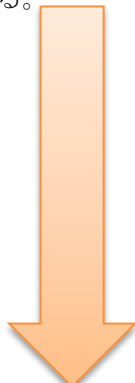
【参観者（学級担任）コメント】

学習の流れ、生徒の意識に沿って席を移動してグループ交流をしていた。自分から呼びかけてグループを作ることは今までやったことはなかったが、有効であると感じた。

同じ題材を選んだもの同士でグループを作り、グループで色分けする際、「ここはどうなった？」と聞き合い、学び合う姿勢が見られた。



(第3時)

	学 習 活 動	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導 入	1 本単元のねらいと前時の学習を確認する。 2 本時の学習課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> 紙板書により単元名と付けたい力を表示することで意識化を図る。
5 分	【学習課題】 社説の共通点や相違点を色分けから浮かび上がった特徴を使い、解説原稿にまとめよう。	
展 開	3 本時の見通しをもつ。 4 本時の課題を解決する。 (1) 特徴を見るための観点を確認する。 ア 緑と青の面積 イ 緑と青の順序 ウ Aの緑(青)とBの緑(青)の取り上げたトピック (2) 共通テキストを上記の観点で見て意見交流する。  (3) 選択テキストを使い、社説の共通点や相違点を色分けから浮かび上がった特徴を使い、解説原稿にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 【実践内容 3】(主体的) 見通しをもたせるため「学習の道しるべ」の【目指す姿】の確認 同一選択者同士のグループ体制にする。 【実践内容 5】(対話的) 同じ社説を選択しているもの同士のグループとそれぞれ違うものを選択しているグループの2つによる、学習目的に応じた使い分け 個人での活動のあと、グループでの交流の時間を短時間設け、訂正や補強を図る。 【実践内容 7】(深い) 教科書教材を共通教材として学習を進め、そこでの学びの過程をたどり、自己選択課題取り組むことで不十分な理解が確かな理解へと深まっていく単元構成及び単位時間の設定
終 末	5 学習を振り返る。 6 次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 【実践内容 3】(主体的) 「学習の道しるべ」の活用による「見通しと振り返り」活動の充実

(第4時)

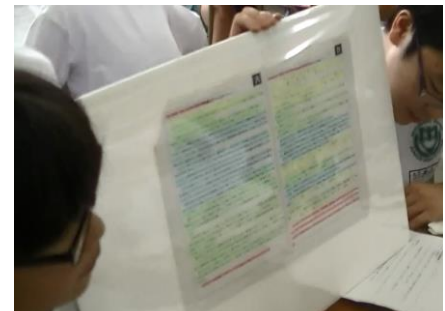
	学 習 活 動	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導 入	1 本単元のねらいと前時の学習を確認する。 2 本時の学習課題を把握する。 【学習課題】 担当社説をこれまでの準備を生かして全力で解説し、身に付いた力を確かめよう。	・紙板書により単元名と付けたい力を表示することで意識化を図る。
展 開	3 本時の見通しをもつ。 ア 練習(確認) 5分 イ 解説・交流 8分×4 ・ 5分程度で解説 ・ 3分程度で交流 ウ 単元の振り返り 8分 4 本時の課題を解決する。 ・ 見通しに沿って活動する。	【実践内容 6】(深い) 同一テーマによる複数社説を教材とし、内容や構成を言葉で理解し、理解したことをもとに社説解説として表現することを通して自分の思いや考えを広げ深める単元課題の設定
終 末	5 学習を振り返る。 6 次時の見通しをもつ。	【実践内容 3】(主体的) 「学習の道しるべ」の活用による「見通しと振り返り」活動の充実

【社説を比べて解説する活動を通して、どんな力がつき、何ができるようになったでしょう。】

この授業を通して、社説を読み取る力がついたので思います。

色分けをして考えたことにより、今まで気づけなかったこともよく考えるようになってよかったです。

4時間の授業で身についたことをこれから生かしていきたいです。



【社説を比べて解説する活動を通して、どんな力がつき、何ができるようになったでしょう。】

2つの社説を比較し、それぞれの特徴をうまくとらえることが出来た。

社説をまとめ、人に伝える力が身についたと思う。

自分の考えもしっかりとつて出来て、今後のため授業になった。

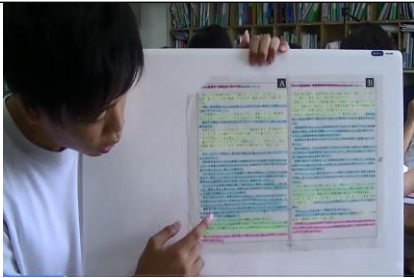
【社説を比べて解説する活動を通して、どんな力が
つき、何ができるようになったでしょう。】

文章を読んで自分や他の人の
考えを深めたり、広げたりする
ことができたのでよかったです。
今日行った授業は絶対、今後
の活動に役立つと思うので
これからも、社説について深く取り
組んでいきたいです。



【社説を比べて解説する活動を通して、どんな力が
つき、何ができるようになったでしょう。】

今更、まとめてきた社説の解説
を友達に分かりやすく説明する事
が出来ました。そのおかげで共通点と
相違点を言葉にする力が身に付
いたと思います。今後にも生かしてい
きたいです。



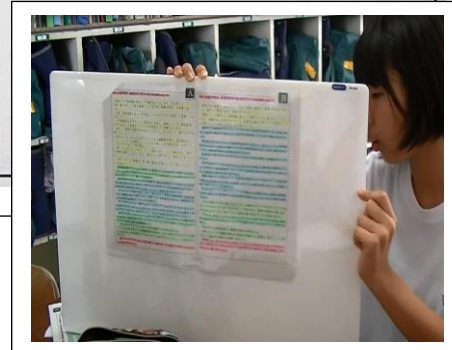
【社説を比べて解説する活動を通して、どんな力が
つき、何ができるようになったでしょう。】

会社により、同じ問題でも解釈の
仕方により、伝え方が異なり、読者の
感じ方に違いがあることが分かりました。
この授業を受け、社説のおもしろい読み
比べ方、それを伝える力がついたような
気がします。



【社説を比べて解説する活動を通して、どんな力が
つき、何ができるようになったでしょう。】

AとBを比べて、共通点や相違点を見つけ
話す力が、自分の考えを伝える力をつけるこ
とができた。そして、相手の考えを聞いて質問
や意見を見つけ、伝えることができた。



【社説を比べて解説する活動を通して、どんな力が
つき、何ができるようになったでしょう。】

今日の発表では、共通点や相違点を言葉
にすることができたり、発表の時に言葉
にあわせることができた。
他、他人の考えを聞き、考えを深めること
ができた。

【社説を比べて解説する活動を通して、どんな力が
つき、何ができるようになったでしょう。】

人前で発表するのは緊張しま
した。でも、質問をしたりできてよ
かったです。質問ができるようにな
ったのは自分や他の人の考えを広げ
たり深めたりしようとする力、学んだ
方向力がついたからだと思
います。そして、しっかりと記述して
いないとも読みとめる力もつけられる
ようになったと思います。



解説原稿

解説員 3年 組 番 氏名 早川 貴之

【1 取り上げた社説】

- A 『リオ五輪開幕 世界の垣根乗り越えて』(朝日新聞 2016. 8. 5)
- B 『リオ五輪開幕 不安を抱えて聖火が灯った』(読売新聞 2016. 8. 7)

【2 見出しからわかること】

どちらも リオオリンピックが開幕したこと
 について述べた社説です。

二つの見出しから リオオリンピックの開幕についてはなんらかの不安材料やマイナス要因があったこと
 がわかります。

【3 Aについて】

- ①フランス面の事柄として
 - ・南米開催が史上初であること
 - ・教育活動による人材育成が進められていること
 - ・このオリンピックが世界を一つに感じるとまたとない機会であること
 - ・難民10選手による選手団が結成されたこと

- ②マインスマ面の事柄として
 - ・国家間の溝が深まっていること(例 イギリスのEU離脱や、ロシアのドーピング問題をめぐるアメリカ、カナダとロシアの対立)

最後に
 『垣根を越えて、人間のスピードとパワーをたたく、競技が盛りなすドラマを楽しもう。』
 と結んでいます。

【4 Bについて】

- ①フランス面の事柄として
 - ・難民選手団が結成されたこと

- ②マインスマ面の事柄として
 - ・政治的に混迷していること
 - ・五輪を冷ややかに見る国民が多いこと
 - ・チケットの売れ行きが低調であること
 - ・テロの発生が心配されることにも関わらず警備の人員が確保できなかったこと
 - ・ロシアのドーピング問題でIOCも混迷していること

最後に
 『日本選手は、338人が出場する。金メダル14個、メダル総数30個以上の目標に向け
 日頃の力を存分に発揮してほしい。』
 と結んでいます。

【5 構成について気付いたこと・思ったこと・考えたこと】

各色のどれが分量として多いか、それはなぜだと考えられるか。
 Aは、縁のよさやフランス面を表す分量が多い。⇒ Aは「乗り越えて」と前向きな見出し
 Bは、マインスマ面や不安を表す背が圧倒的に多い。⇒ Bは不安を強調

構成のよさや改善点はあるか。
 Aは、縁が多く前向きになる。最後の「楽しもう」に対して素直にそう思える。
 Bは、不安が多すぎて心配になる。最後に「力を存分に発揮してほしい」を述べたときなんか
 そういう気持ちになれない。

【6 内容について思ったこと・考えたこと】

リオオリンピックが開幕するのを僕は楽しみにしている。
 確かに「不安を抱えた」状態で開幕するのだろうと思う。読者の整備が間に合わないのではな
 いかといった報道も見たことがある。ドーピングの問題もすいぶんと取り上げられていた。
 警備の人員が確保できなかったことは初めて知ったことで驚いた。
 やはり確かに不安と言えは不安だ。
 ただ、オリンピックに向けて前向きにがんばってきたことも多いと思う。フランスの教育活動
 のことも初めて知った。熱い思いで取り組んでいる人々の思いが感じられる。
 やはりオリンピックは「世界の垣根を乗り越えて」純粋に盛り上げられるイベントだと思う。
 私もオリンピックのドラマを精一杯楽しみたい。

【7 深層にせまる質問例】

- ク (フロアから解説員へ)
 「二つの社説において取り上げたトピック(事柄)の共通点や相違点はありますか。」
- イ 「(ク)のようになっているのは) どうしてだと考えていますか。」
- ウ 「この社説を読んで気になったことや調べてみようと思ったことは何ですか。」
 (解説員からフロアへ)
- エ 「みなさんはこの社説に述べられていることについてどんなことを知っていましたか。」
- イ 「みなさんならこの社説を読んでどのような感想や考えをもちますか。」
- ウ 「みなさんの解説する社説の構成と共通点や相違点を教えてください。」

事例2（高校第2学年） 平成28年11月21日

学 級：岩手県立岩泉高等学校 2年 指導者：県立総合教育センター 横田 昌之

1 単元名

「評論の対比構造をとらえ、筆者の主張を読みとろう」

- ・ 主 教 材「水の東西」（国語総合 数研出版）
- ・ 補助教材「菊とポケモン」（新潮社）

2 単元での目標及び単元で働く「見方・考え方」

(1) 単元の目標

【知識・技能】

- ・ 文章の構成や展開の仕方を捉え、内容の理解に役立てることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・ 文書の論理展開に見られる「対比」を図式化することができる。
- ・ 文章構成をもとに要旨や筆者の主張を捉え、自分の考えと結び付けて言葉で表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・ 文章を読んで自分や他の人の考えを広げたり、深めたりしようとしている。

現行学習指導要領との関連 「C 読むこと」

イ 文章の内容を叙述に即して読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。

エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現について評価したり、書き手の意図を捉えたりすること。

(2) 単元で働く「見方・考え方」

評論の表現・内容に対する自分や他の人の考えを広げたり、深めたりするため、比較文化論の目的、特徴に着目し、論理の展開（対比）を図式化することで評論の要旨や筆者の主張を捉え、捉えたことについて自分の考えをもち、言葉で表現すること。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比較文化論を読むための、対比による文章構造を理解し、文中における対比関係を指摘することができる。	論理の展開、構成に即して対比構造を図式化するとともに、要旨や筆者の主張を捉え、自分の考えと結び付けて言葉で表現している。	比較文化論を読むことを通して、自分のものの見方や考え方を深めようとするとともに、言葉を通じて人と関わり、自分のみではなく他の人の考えを広げたり、深めたりしようとしている。

4 単元の指導と評価の計画（全4時間）

次	時	段階	学習課題と主な学習活動	評価規準と評価方法
一	1	学習目的の理解	<p>【学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「対比」構造を理解しよう。 <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入教材を分析し， <ol style="list-style-type: none"> ①対比関係にある語や表現を見つけ，赤線と青線で引き分ける。 ②グループで互いの見解を共有しながら，学習シートにまとめていく。 ③個々に構成図を作成し，筆者の主張を記述する。 ・主教材を通読して，単元の見通しを確認した後，個々に構成図を作り，筆者の主張を記述する。 	<p>【評価規準（B）】（知・技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較文化論を読むための，対比による文章構造を理解し，文中における対比関係を指摘することができる。 <p>【Aの視点（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張に結び付く対比関係について指摘することができる。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループによる協働，机間指導による支援 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シート ・観察 ・振り返りの記述内容
二	3	構造と内容の把握	<p>【学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「水」の楽しみ方の日本人と西洋人の違いを整理しよう。 <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〈第一段落と第二段落の読解〉 <ul style="list-style-type: none"> ○「水」の楽しみ方の日本人と西洋人の違いについて，対比関係にある語や表現から読み取る。 *グループ・全体で互いの見解を共有 	<p>【評価規準（B）】（思・判・表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「水」の楽しみ方の日本人と西洋人の違いを整理し，図式化している。 <p>【Aの視点（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体を踏まえ抽象化した部分も押さえられている。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループによる協働，机間指導による支援 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シート ・観察 ・振り返りの記述内容
		精査・解釈	<p>【学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人と西洋人の感性の違いを整理し，まとめよう。 <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〈第三段落と第四段落の読解〉 <ul style="list-style-type: none"> ○日本人と西洋人の感性の違いについて，日本人の「噴水」と「鹿おどし」の捉え方に着目し，対比関係にある語や表現から読み取る。 *グループ・全体で互いの見解を共有 	<p>【評価規準（B）】（思・判・表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人と西洋人の感性の違いを整理し，図式化している。 <p>【Aの視点（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外面的な事情と内面的な事情があること，日本人の感性が関連していることを押さえている。 <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループによる協働，机間指導による支援 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シート ・観察 ・振り返りの記述内容
三	4	考えの形成及び表現・交流 自分の学習に対する考察	<p>【学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人と西洋人の感性の違いを整理し，筆者の主張を言葉で表現してみよう。 <p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で交流する。 ・自他の考えが広がったり深まったりするように質問をしたり，感想を述べたりし，グループとしての構成図を作成する。 ・全体で交流し，分析する。 ・単元の振り返りとして，交流後にもう一度，個々に構成図の作成と筆者の主張をまとめ直し，1度目のものと見比べ，何ができるようになったかを自分なりにまとめる。 	<p>【評価規準（B）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成図をもとに，要旨や筆者の主張を捉え，自分の考えと結び付けて言葉で表現している。（思・判・表） ・言葉を通じて人と関わり，自分のみではなく他の人の考えを広げたり，深めたりしようとしている。（主） <p>【Aの視点（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「流れる水と噴き上げる水」，「時間的な水と空間的な水」，「見えない水と目に見える水」の全ての項目について記述している。（思・判・表） ・相手の立場，存在を尊重している。（主） <p>【Cの手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループによる協働，机間指導による支援 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シート ・観察 ・振り返りの記述内容

5 アクティブ・ラーニングの3つの視点に立った授業改善の提案

	「答申」の記述	実践内容
「主体的な学び」 の実現に向けて	<p>○子供自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場면을計画的に設けること</p> <p>○子供たちの学ぶ意欲が高まるよう、実社会や実生活との関わり重視した学習課題として、子供たちに身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習シート」の活用による「見通しと振り返り」活動の充実【1】 ・課題遂行のために必要な「力」を洗い出し、それによる学習プランの作成【2】 ・生徒たちにとって身近な話題として、日本文化であるマンガが生まれた社会背景について述べられた評論の学習材化【3】
「対話的な学び」 の実現に向けて	<p>○互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場면을計画的に設けること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成図の作成と筆者の主張をまとめる際のグループ、全体での交流【4】
「深い学び」 の実現に向けて	<p>○言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設けること</p> <p>○子供自身が自分の思考の過程をたどり、理解し直したり表現し直したりしながら思いや考えを深めること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・補助教材の内容や構成を言葉で理解し、理解したことを構成図に表したり、読み取った筆者の主張について記述したりして、自分の思いや考えを広げ深める単元課題の設定【5】 ・教科書教材を主教材として学習を進め、補助教材での学びの過程をたどり、不十分な理解が確かな理解へと深まっていく単元構成及び単位時間の設定【6】

6 本時の実際

(第1時)

	学 習 活 動	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導入 10分	1 教材への理解を深める。 ・対比の理解	・身近な例をもとに、対比について関心を高める。 ・対比の構造や構成図について理解する。
展 開 32分	2 本時の学習課題を把握する。 【学習課題】 対比構造を理解しよう。	
	3 本時の課題を解決する。 (1) 補助教材の演習が、ゴールの姿に至ることを確認する。 (2) 補助教材を分析し、対比構造を理解する。 ・導入教材を分析し、 ①対比関係にある語や表現を見つけ、赤線と青線で引き分ける。 ②グループで互いの見解を共有しながら情報を絞り、a～eの項目について学習シートにまとめていく。 ③(共有できたものを参考に)個々に構成図を作成し、筆者の主張を記述する。 (3) 主教材を通読して、単元の見通しを確認した後、個々に構成図を作り、筆者の主張を記述する。	・補助教材「菊とポケモン」で演習しながら、単元に位置付けた言語活動である構成図の作成を理解する。 【実践内容 1】(主体的) 「学習シート」の活用による「見通しと振り返り」活動の充実 【実践内容 2】(主体的) 課題遂行のために必要な「力」を洗い出し、それによる学習プランの作成 【実践内容 3】(主体的) 生徒たちにとって身近な話題として、日本文化であるマンガが生まれた社会背景について述べられた評論の学習材化 【実践内容 4】(対話的) 構成図の作成と筆者の主張をまとめる際のグループ、全体での交流 【実践内容 5】(深い) 補助教材の内容や構成を言葉で理解し、理解したことを構成図に表したり、読み取った筆者の主張について記述したりして、自分の思いや考えを広げ深める単元課題の設定
	【まとめ】 課題を解決するために必要な力を考え、主教材で深めることを確認したことでプランとなる。	
終 末 8分	4 学習を振り返る。 5 次時の見通しをもつ。 ・主教材「水の東西」の構成図を作成し、筆者の主張を読み取ることを学んでいくことを確認する。	【実践内容 1】(主体的) 「学習シート」の活用による「見通しと振り返り」活動の充実 ・個々に構成図を作成し、筆者の主張を記述しておくことを指示する。

学習見通しの説明



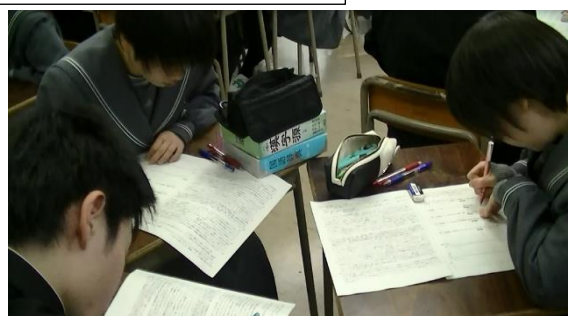
生徒間の交流（ペア）



生徒間の交流（グループ）



生徒間の交流（グループ）



【生徒振り返り】

ワークシートには、この時間で取り組むべきことが順に並んであったし、考えるべきことが分かるように図も見やすかったので、何をすればよいか分かった。

【生徒振り返り】

「対比」を見つけることで、筆者が何を伝えたいかがわかるということを知ることができました。

【生徒振り返り】

考えを共有し、まとめるのは難しかった。いかに自分の意見を主張して、相手の意見を取り入れるかが大切だと感じました。

【生徒振り返り】

対比することによって、何を主張したいのか、また何を読者に伝えたいのかが読み取りやすくなるのだと思いました。
これから現代文の授業をする中で、対比表現を見つけたときは、今回の授業で学んだことを手本として筆者の主張を読み取っていきたいです。また、自分が文章を書く機会があったら、これからは対比などの表現技法を活用して文を書きたいと思いました。



【参観者コメント】

第1時に、国語を学ぶことの意味や「付けたい力」を明示したことで、生徒たちは単元を通して学ぶべき事の理解や把握がなされ、振り返りの時間に「何の力が身に付いているか」を意識するようになるのだと感じた。それをふまえ、毎時間の授業時の最初に「本時の目標」を示すことと最後に「振り返り」をさせる場面を設定することが必要だと思った。



(第2時)

	学 習 活 動	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導 入 5 分	1 本単元のねらいと前時の学習を確認する。 2 本時の学習課題を把握する。 【学習課題】 「水」の楽しみ方の日本人と西洋人の違いを整理しよう。	・板書により単元名と付けたい力を明示することで意識化を図る。
展 開 37 分	3 本時の見通しをもつ。 ・「水の東西」第1段落と第2段落を音読する。 4 本時の課題を解決する。 (1) 第1段落と第2段落で、難解な語句の意味を確認する。 (2) 個人で対比関係にある語や表現を見つけ出す。 ・第1段落と第2段落において、日本人の「水」の仕掛けや向き合い方が読み取れるものを赤で、西洋人の「水」の仕掛けや向き合い方が読み取れるものを青で、それぞれ線を引く。 ・学習シートに書き出す。 (3) グループで交流し、対比関係にある語や表現をホワイトボードに書き出し、黒板に貼り出して全体で分析をする。 ・共通する部分と異なる部分を確認し、異なる部分について取り上げる必要があるか否かを検討する。 (4) 交流で得られた情報をもとに、個々に自分の見解について見直し、修正したものを学習シートに記述する。 【まとめ】 対比の関係を見出すことで、内容の理解に役立てることができる。	【実践内容 1】(主体的) 「学習シート」の活用による「見通しと振り返り」活動の充実 ・個々の「変容」を見取るため、個人の作業を大切にす。 【実践内容 6】(深い) 教科書教材を主教材として学習を進め、補助教材での学びの過程をたどり、不十分な理解が確かな理解へと深まっていく単元構成及び単位時間の設定 【実践内容 4】(対話的) 構成図の作成と筆者の主張をまとめる際のグループ、全体での交流
終 末 8 分	5 学習を振り返る。 6 次時の見通しをもつ。	【実践内容 1】(主体的) 「学習シート」の活用による「見通しと振り返り」活動の充実

(第3時)

	学 習 活 動	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導入 5分	1 本単元のねらいと前時の学習を確認する。 2 本時の学習課題を把握する。	・板書により単元名と付けたい力を明示することで意識化を図る。
	【学習課題】 日本人と西洋人の感性の違いを整理し、筆者の主張を言葉で表現してみよう。	
展 開 37分	3 本時の見通しをもつ。 ・「水の東西」第3段落と第4段落を音読する。 4 本時の課題を解決する。 (1) 第3段落と第4段落で、難解な語句の意味を確認する。 (2) 個人で対比関係にある語や表現を見つけ出す。 ・第3段落と第4段落において、日本に「噴水」が作られなかった理由が記述された部分を赤で、西洋に「噴水」が作られた理由が記述された部分を青で、それぞれ線を引く。 ・学習シートに書き出す。 (3) グループで交流し、対比関係にある語や表現をホワイトボードに書き出し、黒板に貼りだして全体で分析をする。 ・共通する部分と異なる部分を確認し、異なる部分について取り上げる必要があるか否かを検討する。 (4) 交流で得られた情報をもとに、個々に自分の見解について見直し、修正したものを学習シートに記述する。	【実践内容 1】(主体的) 「学習シート」の活用による「見通しと振り返り」活動の充実 ・個々の「変容」を見取るため、個人の作業を大切に する。 【実践内容 6】(深い) 教科書教材を主教材として学習を進め、補助教材での学びの過程をたどり、不十分な理解が確かな理解へと深まっていく単元構成及び単位時間の設定 【実践内容 4】(対話的) 構成図の作成と筆者の主張をまとめる際のグループ、全体での交流
	【まとめ】 対比の関係を見出すことで、内容の理解に役立てることができる。	
終 末 8分	5 学習を振り返る。 6 次時の見通しをもつ。	【実践内容 1】(主体的) 「学習シート」の活用による「見通しと振り返り」活動の充実

(第4時)

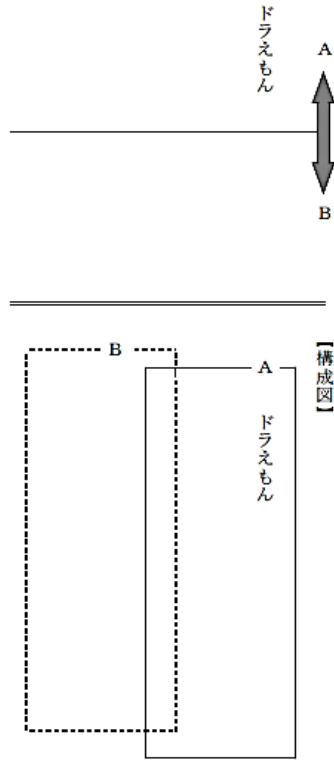
	学 習 活 動	三つの視点による実践内容・指導上の留意点
導入 5分	1 本単元のねらいと前時の学習を確認する。 2 本時の学習課題を把握する。 【学習課題】 日本人と西洋人の感性の違いを整理し、筆者の主張を言葉で表現してみよう。	・板書により単元名と付けたい力を明示することで意識化を図る。
展 開 37分	3 本時の見通しをもつ。 ・構成図と筆者の主張をまとめることを確認する。 4 本時の課題を解決する。 (1) 前時までに読み取った対比関係の内容をもとに、個々に構成図を学習シートに作成する。 (2) グループで交流し、構成図をホワイトボードに書き、黒板に貼りだして全体で分析をする。 ・グループ内で、自他の考えが広がったり深まったりするように質問をしたり、感想を述べたりし、グループとしての構成図を作成した後、全体で交流する。 (3) 交流で得られた情報をもとに、個々に自分の構成図について修正したものを学習シートに完成させた後、筆者の主張を100字でまとめる。	・グループでの交流の後、全体交流の時間を設け、訂正や補強を図る。 【実践内容 6】(深い) 教科書教材を主教材として学習を進め、補助教材での学びの過程をたどり、不十分な理解が確かな理解へと深まっていく単元構成及び単位時間の設定 【実践内容 4】(対話的) 構成図の作成と筆者の主張をまとめる際のグループ、全体での交流
終 末 8分	5 学習を振り返る。 6 次時の見通しをもつ。	【実践提案1】(主体的) 「学習シート」の活用による「見通しと振り返り」活動の充実

学習プリント

【本時の目標】
○文章の論理展開に見られる「対比」構造を理解しよう。

○「対比」のイメージを作りましょう。
◎次の文章を読んで、傍線部の七つの語を二つのグループに分け、構成図を作ってください。

ドラえもんは人間ではなく、ロボットである。ロボットは機械にほかならず、生身の生き物ではない。ドラえもんはのび太君とは対照的である。ドラえもんは何でもエネルギーに変える機能を持っているので、基本的に食事は無用である。



【「対比」構造を読み解くために…】

- ・文の主述の関係を正確に押さえよう。その際、「否、非、不、無」などの接頭語がついた語や文末に「〜（ない）」。などのついた否定表現に注目。
- ・語と語、文と文を結ぶ語に、対比を導く「〜に対して」「〜や」「〜対照的に」「〜ではなく」「〜等」が用いられているところに注目。
- ・ある語とある語が、（対義）語の関係で用いられたるところに注目。

学習プリント

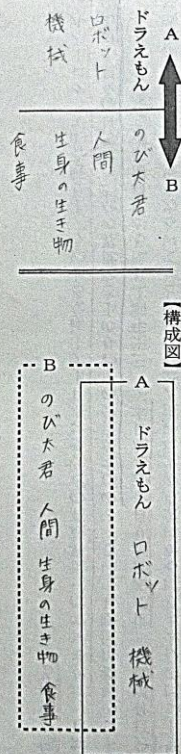
岩泉高等学校 二年 A組

【本時の目標】
○文章の論理展開に見られる「対比」構造を理解しよう。

○「対比」のイメージを作りましょう。

◎次の文章を読んで、傍線部の七つの語を二つのグループに分け、構成図を作ってください。

ドラえもんは人間ではなく、ロボットである。ロボットは機械にほかならず、生身の生き物ではない。ドラえもんはのび太君とは対照的である。ドラえもんは何でもエネルギーに変える機能を持っているので、基本的に食事は無用である。

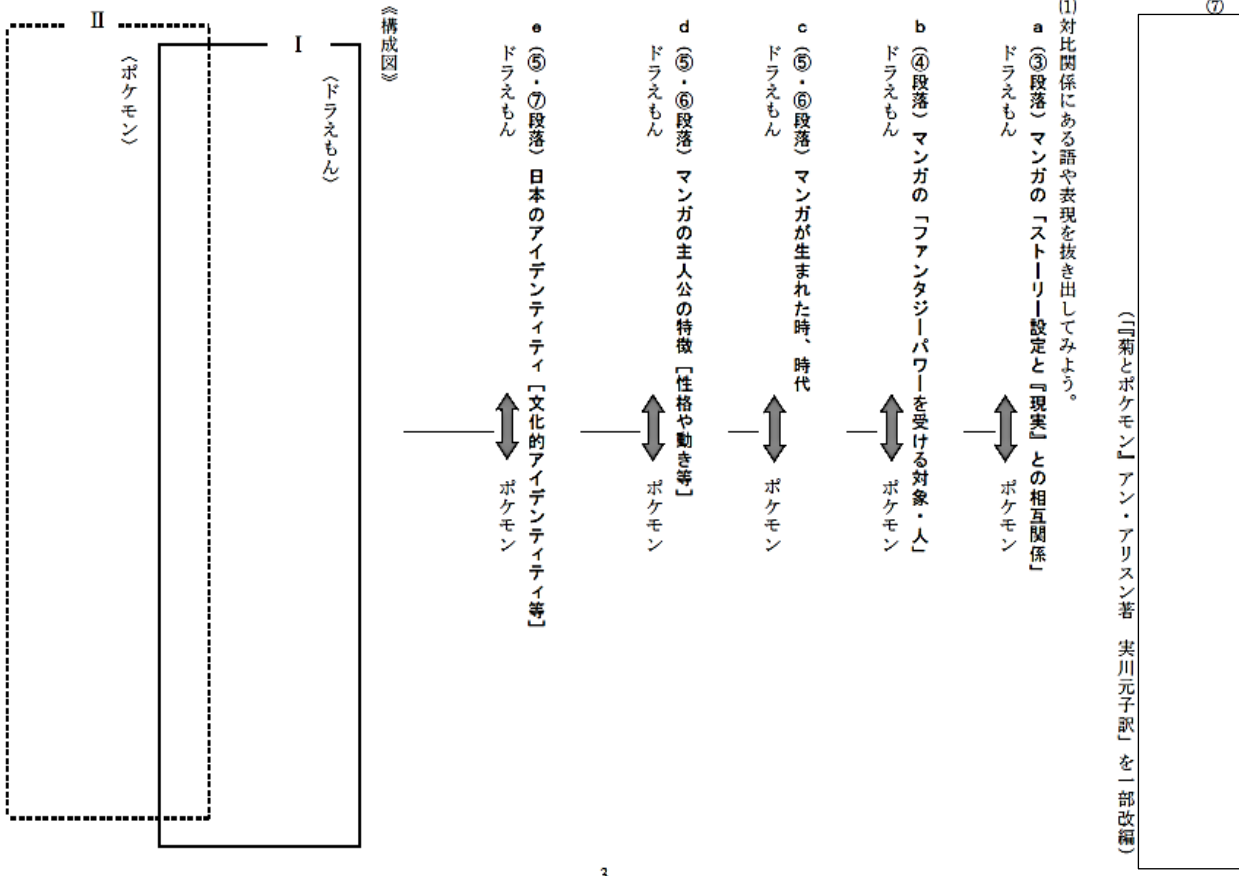


【「対比」構造を読み解くために…】

- ・文の主述の関係を正確に押さえよう。その際、「否、非、不、無」などの接頭語がついた語や文末に「〜（ない）」。などのついた否定表現に注目。
- ・語と語、文と文を結ぶ語に、対比を導く「〜に対して」「〜や」「〜対照的に」「〜ではなく」「〜等」が用いられているところに注目。
- ・ある語とある語が、（対義）語の関係で用いられたるところに注目。



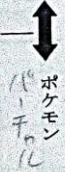
◎ 次の文章を読んで、(1)、(発展)について考えてみよう。
 (1) 「対比」の語に着目して、「I ドラえもん」と「II ポケモン」の関係について構成図を完成させてみよう。
 (発展) 筆者が読者に伝えたい主張について1000字を目標に書いてみよう。…文章の長さは問いません。短くても構いません。



(1) 対比関係にある語や表現を抜き出してみよう。

a (3) 段落 マンガの「ストーリー設定」と「現実」との総合関係

ドラえもん 日本



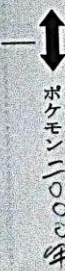
b (4) 段落 マンガの「ファンタジーパワー」を受ける対象・人

ドラえもん 一人だけ「のび太」



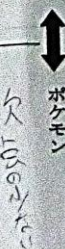
c (5)・(6) 段落 マンガが生まれた時、時代 (5)・(6) 段落

ドラえもん 1970年代



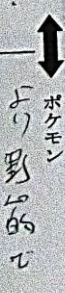
d (5)・(6) 段落 マンガの主人公の特徴「性格や動き等」

ドラえもん 欠陥だらけ



e (5)・(6) 段落 日本のアイデンティティ「文化的アイデンティティ等」

ドラえもん 「日本の昔からのもの」
家族の伝統



《構成図》

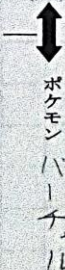
I (ドラえもん) 日本一人だけ、1970年代「欠陥だらけ」
日本の昔からのもの、家族の伝統

II (ポケモン) バーチャル、誰でも、2000年、欠陥のない、
より野心的、グローバルな目標

(1) 対比関係にある語や表現を抜き出してみよう。

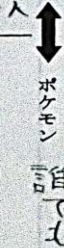
a (3) 段落 マンガの「ストーリー設定」と「現実」との総合関係

ドラえもん は、モリとした日本



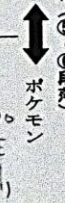
b (4) 段落 マンガの「ファンタジーパワー」を受ける対象・人

ドラえもん 一人だけ「特定の」



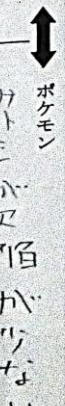
c (5)・(6) 段落 マンガが生まれた時、時代 (5)・(6) 段落

ドラえもん 1970年代



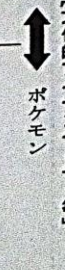
d (5)・(6) 段落 マンガの主人公の特徴「性格や動き等」

ドラえもん 欠陥だらけ



e (5)・(6) 段落 日本のアイデンティティ「文化的アイデンティティ等」

ドラえもん 日本国内



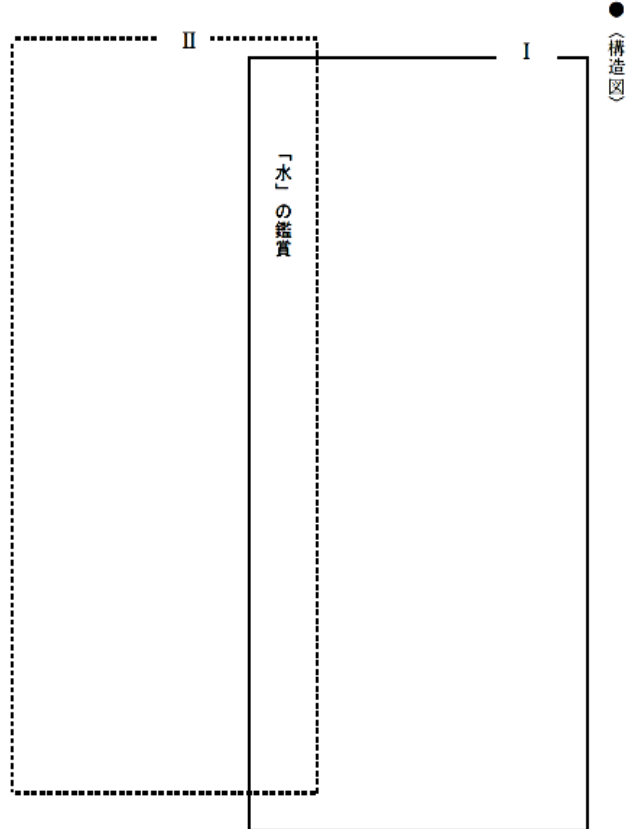
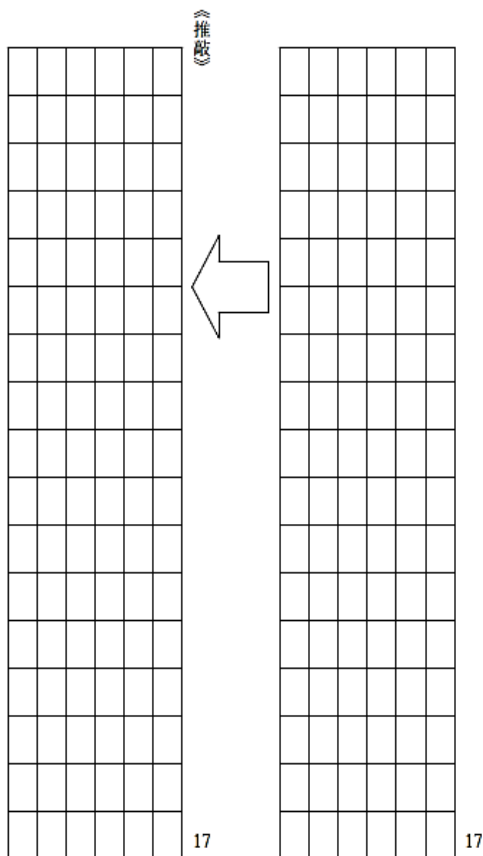
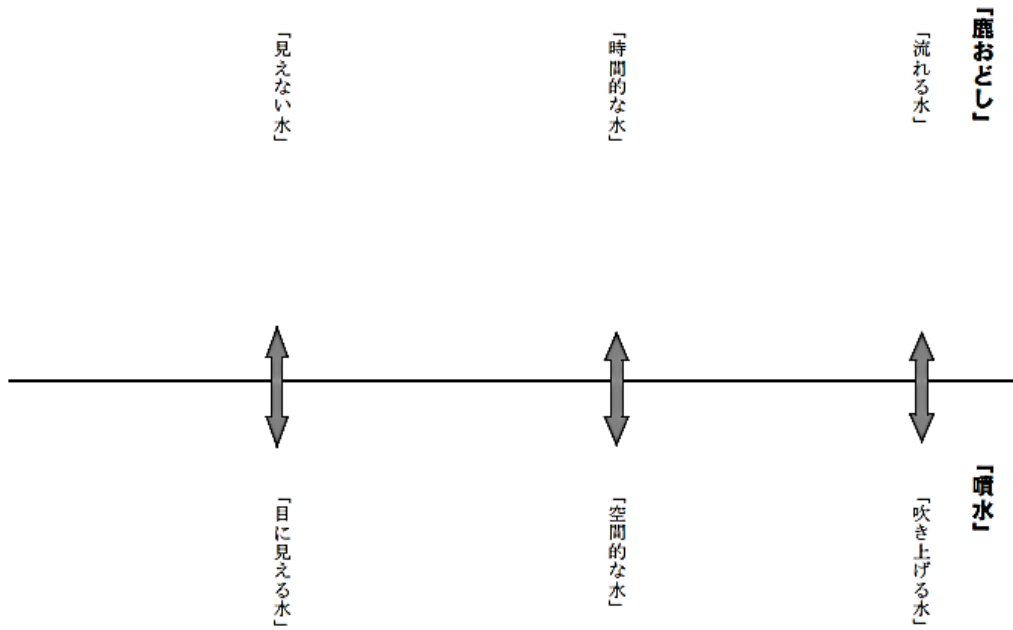
《構成図》

I (ドラえもん) は、モリとした日本一人だけ、1970年代

II (ポケモン) (グローバル化)

組 番 氏 名

◎ 「水の東西」の具体例である、「鹿おどし」と「噴水」について、三つの対比的な表現を手がかりに整理しましょう。それぞれの内容を説明した箇所を本文中から抜き出し、足りないところは自分の言葉で補おう。



2つの事例を振り返って（成果と課題及び理論実現のための留意点）

1 「主体的な学び」の実現に向けて

【成果と課題】

- 一次の重要性が確認できた。表現モデルの演示は生徒の興味や関心を高めることに有効。
- 「学習の道しるべ」（振り返りシート）は、有効であるものの、その内容、提示時期、活用方法等についてさらに実践を踏まえて、研究を進める必要がある。

【理論実現のための留意点】

- 「やってみたい。」と思わせるモデルの提示などの導入の手立てが課題解決的な言語活動を進める上で、重要なポイントとなる。
- 実社会や実生活の中から、子供たちの学ぶ意欲が高まるような学習材を見つけていくことが大切である。

2 「対話的な学び」の実現に向けて

【成果と課題】

- 生徒たちが目的や必要性を意識して取り組む対話とするため、生徒たちに対話の相手や時間など何らかの「選択・判断」をさせることが一つの有効な方法であることが確認できた。
- 対話による学びの成果を実感させるための手立てが求められる。

【理論実現のための留意点】

- 同じ社説を選択しているもの同士のグループとそれぞれ違うものを選択しているグループの2つによる、学習目的に応じた使い分けは生徒の意欲面に対しても、また、互いの知見を広げたり高めたりすることに対しても有効に働いていたことがわかる。
- 「対話的な学びの実現」に向けては、対話的な言語活動を行う学習場면을計画的に設けることが必要であるが、それは単に、「個人で考え、ペアで交流し、グループで広げ、全体交流で深める」といった手順を追うことではない。「主体的な学び」と同様に、「子供自身が目的や必要性を意識して取り組める学習」とならなければならない。
- 学習場면을計画的に設けながら、対話ができる環境を整えることやグループワークをするにふさわしい課題を提示することなどが「対話的な学びの実現」に向けた一つのポイントであると考えられる。
- 「対話による学習成果（メリット）が共有されている必要があるだろうと考える。また、学習者に何らかの選択をさせる必要があるのではないかと考える。今回は対話をしたい「人」を選択させた。こういったことをどこまで選択させるかといったことが「対話的な学びの実現」に向けた一つのポイントであると考えられる。

3 「深い学び」の実現に向けて

【成果と課題】

- 「深い学び」の実現に向け、単元で働く「見方・考え方」を構造的に捉え、それに基づいた単元の指導を展開することの重要性が確認できた。
- 思考を深めたり活性化させたりしていくための語彙を豊かにするための指導が求められる。

【理論実現のための留意点】

- 同一テーマによる複数社説を教材とし、内容や構成を言葉で理解し、理解したことをもとに社説解説として表現するという課題を行っていくことで自分の思いや考えを広げ深める姿が見られた。ただ、最後に発表があれば深まるというものではない。学びの深まりは、「見方・考え方」をどう働かせているかが大事であるが、それは知識や技能の質や量が支えている。
- 教科書教材を共通教材として学習を進め、そこでの学びの過程をたどり、自己選択課題に取り組みという学びの過程をとったことで社説の構成や展開の理解（及び色分けの技能習得）が図られ、自己選択課題への取組意欲の向上につながったものと考えられる。
- 評論教材について、内容や構成を言葉で理解し、理解したことをもとに自分の言葉で表現するという課題を行っていくことで、自分の思いや考えを広げ深める姿が見られた。また、「主体的な学び」の実現にも通することだが、補助教材での思考過程を本教材でたどってみることで方法知と内容知に対する自覚がより深められることが実感できた。

4 学習評価の充実について

【成果】

- 「十分満足できる」状況と判断するための【Aの視点（例）】を設定することや、学習シートの中に「目指す姿」を記述することで、「学習者の学びの推進力」、「生徒を伸ばす評価」となることが確認できた。
- 単元に課題解決的な言語活動を位置付け、パフォーマンス評価を行っていくことで、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価の在り方の一例を示すことができた。
- 学習活動や教師の指導などを通じて学力が生徒自身に定着したか否かを見取るため、指導前の生徒の持っていた能力が指導後にどれくらい「変容（定着）」したかを見取することを意識した単元構想の在り方を示すことができた。

【課題】

- 確かな国語の能力が身に付いたかどうかを客観的に把握できる評価問題の作成や評価の在り方について研究すること。
- 生徒の実態を的確に把握した上で、評価規準が生徒の学習状況を具体的に想定されたものとなるよう研究すること。
- 適切に評価ができるような、生徒のゴール像（単元の目標に設定した身に付けて欲しい国語力が、授業を終えた後で生徒に身に付いている）を見通した単元構想や授業構想の在り方について検討を重ねること。

終わりに

「答申」(2016)には、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善に関して、次のような懸念が述べられています。

○教育の質の改善のための取組が、狭い意味での授業の方法や技術の改善に終始するのではないか(「答申」(2016) P.49)

○工夫や改善が、ともすると本来の目的を見失い、特定の学習や指導の「型」に拘泥する事態を招きかねないのではないか(「答申」(2016) P.49)

「はじめに」でもふれたように、本研究では、「三つの柱」を総合的に育むことを目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善の考え方について、指導法を一定の型にはめ狭い意味での授業方法や授業技術の改善に終始しないようにすること留意しました。

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現に向けてどういったことが求められているのかを「答申」をじっくり読んで確かめ、それらを単元レベルや単位時間レベルでの学習活動として位置付けました。無数にある「工夫」から、いくつかを組み合わせで行ったのが今回の授業実践です。

「答申」(2016)は、私たち教員に求めることとして、次のように述べています。

新しい社会の在り方を自ら創造することができる資質・能力を子供たちに育むためには、教員自身が習得・活用・探究という学びの過程全体を見渡し、個々の内容事項を指導することによって育まれる資質・能力を自覚的に認識しながら、子供たちの変化等を踏まえつつ自ら指導方法を不断に見直し、改善していくことが求められる。(「答申」(2016) P.49)

「型」にこだわることなく、安易に「型」を求めることなく、三つの学びの実現という一点において、指導方法を常に見直していくことが大切です。

東京学芸大学准教授中村和宏先生の提言「国語科授業におけるアクティブ・ラーニングとは」(教育科学国語教育5月号収録)の一節を紹介します。

方法は「型」ではない。「型」としての方法を身に付けてから授業をするのではなく、この三つの学びの実現に向けて学習指導の方法を工夫していくのである。そして、この三つの学びの視点で子どもたちの学習を捉え、授業を振り返ったり、協議をしたりするのである。そうした取り組みの積み重ねから、国語の授業は徐々にアクティブ・ラーニングになっていくのである。

(「教育科学国語教育5月号」(2016) P.13)

最後になりましたが、研究推進にあたり岩手県立岩泉高等学校及び奥州市立水沢南中学校のご協力をいただき、研究担当者による授業実践の機会をあたえていただきましたことに深く感謝申し上げます。

引用文献

- 国立教育政策研究所（2011），『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 国語】』 P. 21
- 国立教育政策研究所（2012），『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）』 P. 23
- 中央教育審議会教育課程企画特別部会国語ワーキンググループ（2016），『国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 P. 5, 資料 4
- 中央教育審議会教育課程企画特別部会（2016），『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 PP. 28-31, PP. 49-52, PP. 60-63, PP. 125-127 別添資料 P. 2
- 中村和宏（2016），『国語科授業におけるアクティブ・ラーニングとは』（教育科学国語教育 5月号），明治図書 P. 13

参考文献

- 秋田喜代美（2016），『対話的な子どもを育み協働的に学ぶ力をつけるということ』（教育科学国語教育 10月号），明治図書
- 岩手県立総合教育センター 教科領域教育担当（2016），『学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科の指導法に関する研究—学びの連続性を考慮し，言語活動の充実を図る授業づくり—研究報告書』
- 高木展郎（2016），『学習プロセスを考えた国語科の授業づくりとは』（教育科学国語教育 9月号），明治図書
- 中央教育審議会教育課程部会教育課程企画特別部会（2015），『教育課程企画特別部会 論点整理』
- 中央教育審議会教育課程企画特別部会（2016），『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』
- 中村和宏（2015），『コンピテンシー・ベースの新しい国語科授業づくりに向けて』（教育科学国語教育 10月号～2016年3月号），明治図書
- 中村和宏（2016），『国語科において育成を目指す資質・能力と学習活動とは』（教育科学国語教育 11月号），明治図書
- 中渕正堯・国語論究の会（2014），『高校国語実践の省察と展望』（三省堂）
- 松下佳代（2016），『国語科授業におけるアクティブ・ラーニングとは』（教育科学国語教育 5月号），明治図書
- 溝上慎一（2016），『主体的・協働的に学ぶ力を育てる学習課題とは』（教育科学国語教育 7月号），明治図書

研究協力校

岩手県立岩泉高等学校
奥州市立水沢南中学校

平成 28 年度版

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の在り方に関する研究

－「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を通して－

中学校・高等学校 国語科ガイドブック(中間報告)

発行

岩手県立総合教育センター 教科領域担当

〒025-0395 岩手県花巻市北湯口 2-82-1

TEL 0198-27-2735

担当(問い合わせ) 早川 貴之 (Email:t-hayakawa@pref.iwate.jp)

横田 昌之 (Email:m-yokota@center.iwate-ed.jp)

発行日 平成 28 年 2 月 10 日

